

丸亀城跡(丸亀市)

築城年代:慶長2年(1597年)、築城者:生駒親正

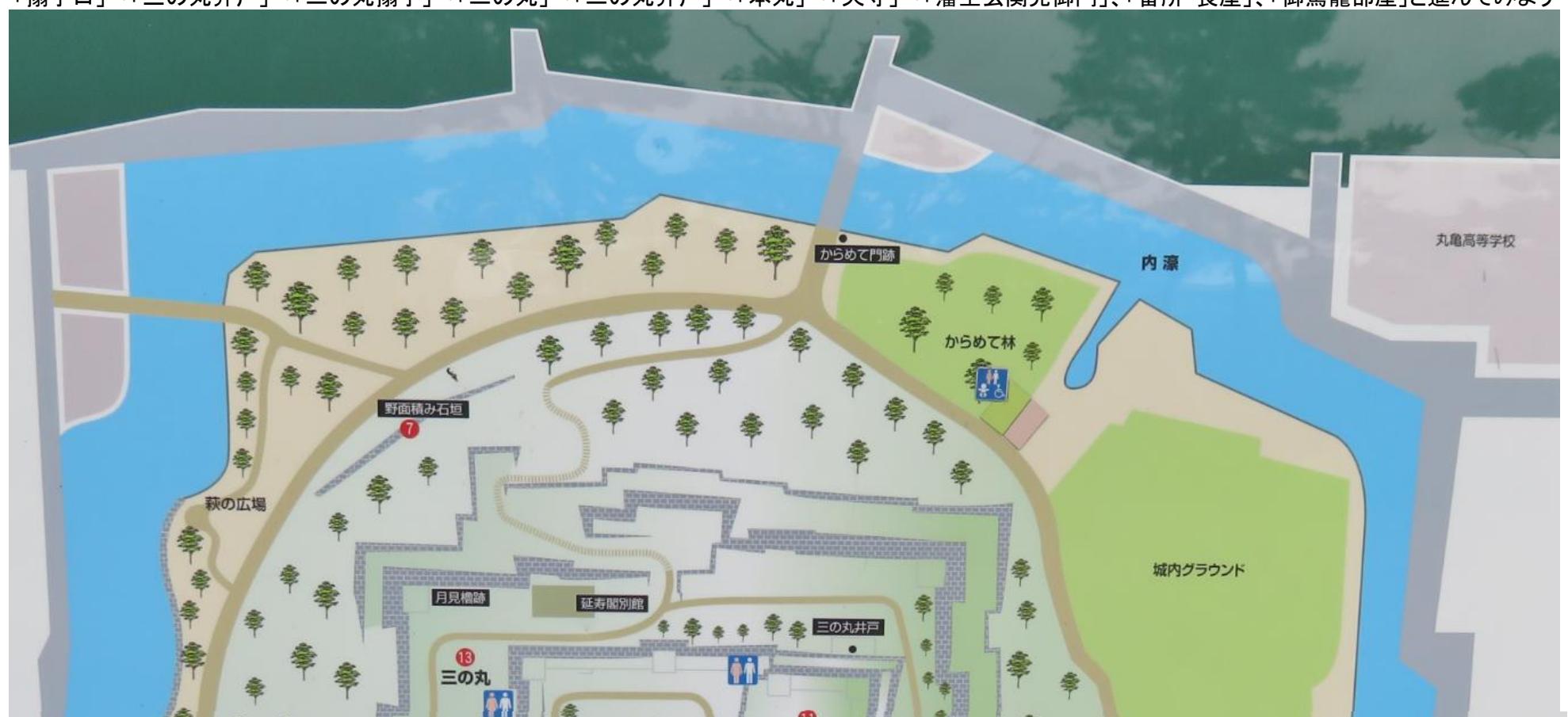
これは北側の市役所がある市民広場から見た丸亀城/「本丸」の「天守」が見えている



アップで見たところ/まさに「石垣の城」である



北側の土橋から「大手二の門」→「枒形」→「大手一の門(太鼓門)」→「見返り坂」→「三の丸高石垣」→「三の丸」→「搦手門跡」→「野面積み石垣」→「帯曲輪」→「搦手口」→「三の丸井戸」→「二の丸搦手」→「二の丸」→「二の丸井戸」→「本丸」→「天守」→「藩主玄関先御門」、「番所・長屋」、「御駕籠部屋」と進んでみよう





正面の土橋を渡った所が「大手二の門」



大きな標柱が立っている



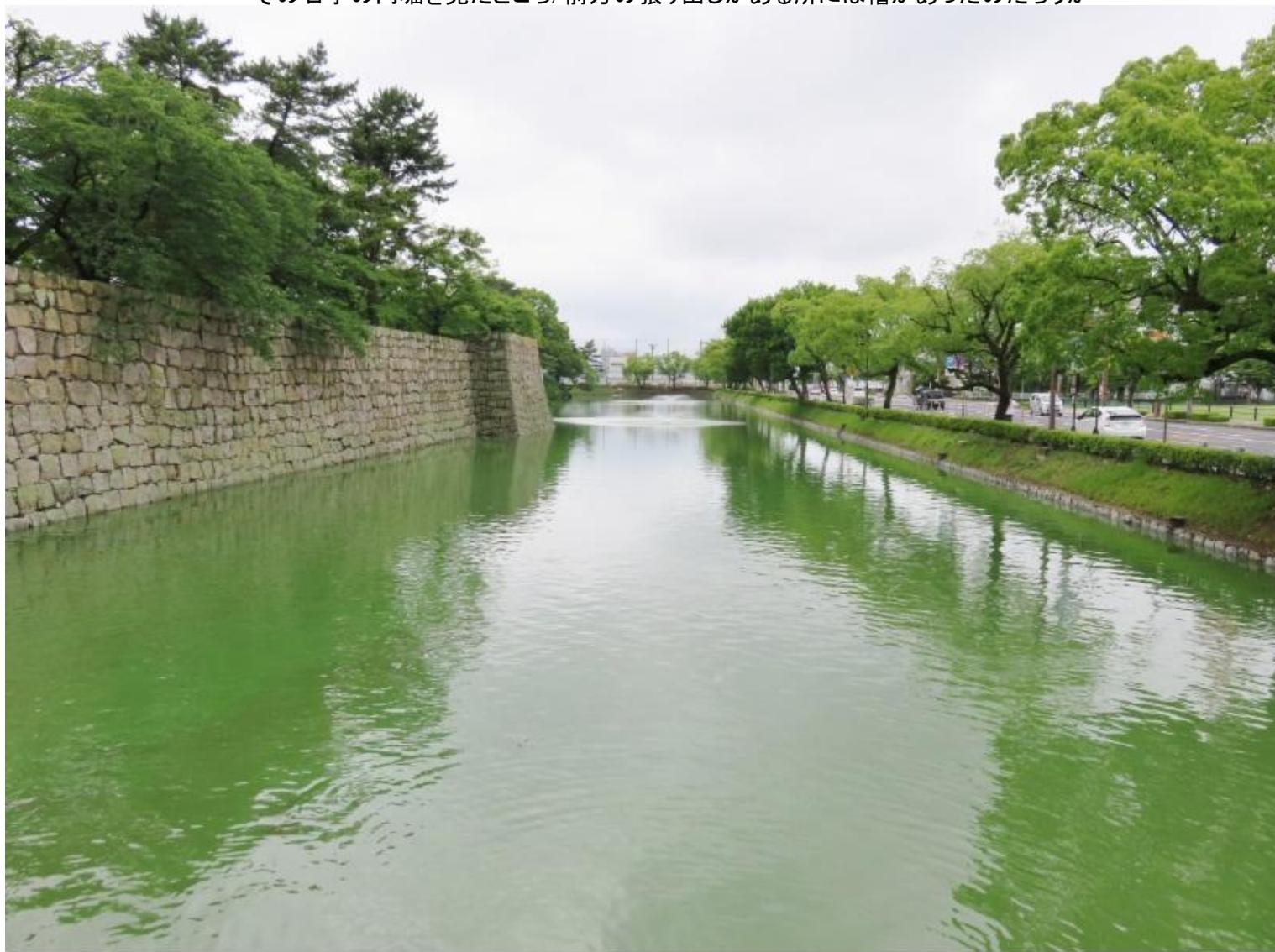
正面が「大手二の門」/両サイドには狭間塀がある



右手を見たところ



その右手の内堀を見たところ/前方の張り出しがある所には櫓があったのだろうか



左手の内堀を見たところ



その右手の石垣を見たところ/打ち込み接ぎ



ここは「大手二の門」の内部の「枡形」/ここの石垣は「切り込み接ぎ」/大きな石が散りばめられている/右手が「大手一の門」



これは鏡石



「大手二の門」の扉



丸亀城大手一の門、二の門

もと南方にあつた大手門を、
京極氏入城直後の寛文十年（一
六七〇）に北方のこの地へ移築
した。大手の外門高麗門は切妻
造りで、左右に狭間塀を持ち、
内部の石垣は岩崎組みされ
大手二の門とよび、右方の櫓門は
大手一の門とよばれ、櫓上で時
報の大鼓を打つていたので太鼓
門ともいわれている。両門とも
同時の建造で、主要部はすべて櫓
構造を用いている。

重要文化財

昭和三十二年六月十八日国指定

振り返って「大手二の門」を見たところ/高麗門形式



そこで左手を見るとこれは「大手一の門」/「太鼓門」とも呼ばれる櫓門である



振り返って見たところ/左手は「大手二の門」



これは「大手一の門」を潜ったところ/このレベルの平場は「山下曲輪」で、城壁をぐるりと取り巻いている/西方向に見たところ



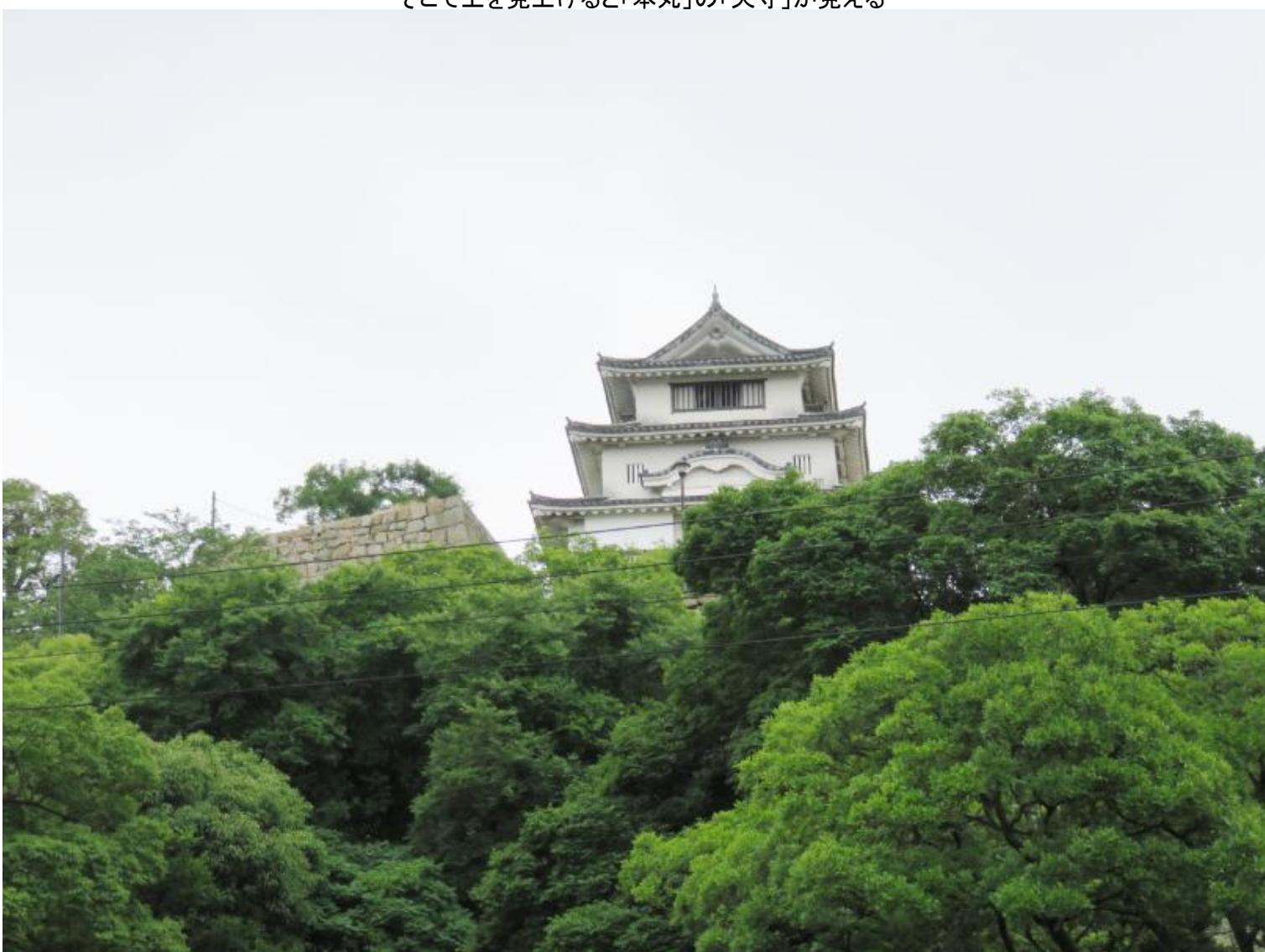
振り返って「大手一の門」を見たところ



そこで右手を見たところ/前方に説明坂が立っている/南方向に見たところ/左手に登って行った所が「見返り坂」



そこで上を見上げると「本丸」の「天守」が見える



国指定史跡となっている

国指定史跡 丸亀城跡(亀山公園)案内図

GUIDE TO MARUGAME CASTLE

丸亀城跡の概要
亀山公園(亀山公園) 大正9年8月開園
国指定史跡丸亀城跡 昭和23年3月31日指定
重要文化財丸亀城天守 昭和18年6月9日指定
重要文化財大手一の門、二の門附東西土塁 昭和32年6月18日指定
県指定文化財玄葉井御門、番所長屋附土塁 昭和38年4月9日指定

① 天守(てんしゆ)
Tenshu



天守
本丸
外堀
空堀

② 大手一の門(おおていちのもん)
Ogata Ichimon



第一門

③ 大手二の門(おおてにのもん)
Ogata Nmon



第二門

④ 本丸御門(ほんまるごもん)
Honmaru Gomon



第一御門

⑤ 侍宿・厩舎(さんしょく・なや)
Soushu・Nagoya



第一・二・三

⑥ 三の丸高石垣(さんまるたかいしがき)
Sanmaru Takamigaki



第一・二・三

⑦ 積雪積み石垣(のづらづみいしがき)
Sodarami Ishigaki



第一・二・三



さまざまな案内板



そこで振り返って見たところ/右手が「大手一の門」/北方向に見たところ



正面の道を登って行くと「見返り坂」/その左手に城内観光案内所がある/右手には小さな標柱が見える



標柱には「さぬき百景 丸亀城」と記されている



ここが城内観光案内所



そこで振り返って西方向を見たところ/前方を進むと「藩主玄関先御門」、「番所・長屋」、「御駕籠部屋」がある/最後に行ってみよう



さて、ここは「見返り坂」/ここから「三の丸」方向へと進もう/この坂の途中には冠木門、登り切った所には番所があったと云う



これは右手にあった「帰厚の碑」



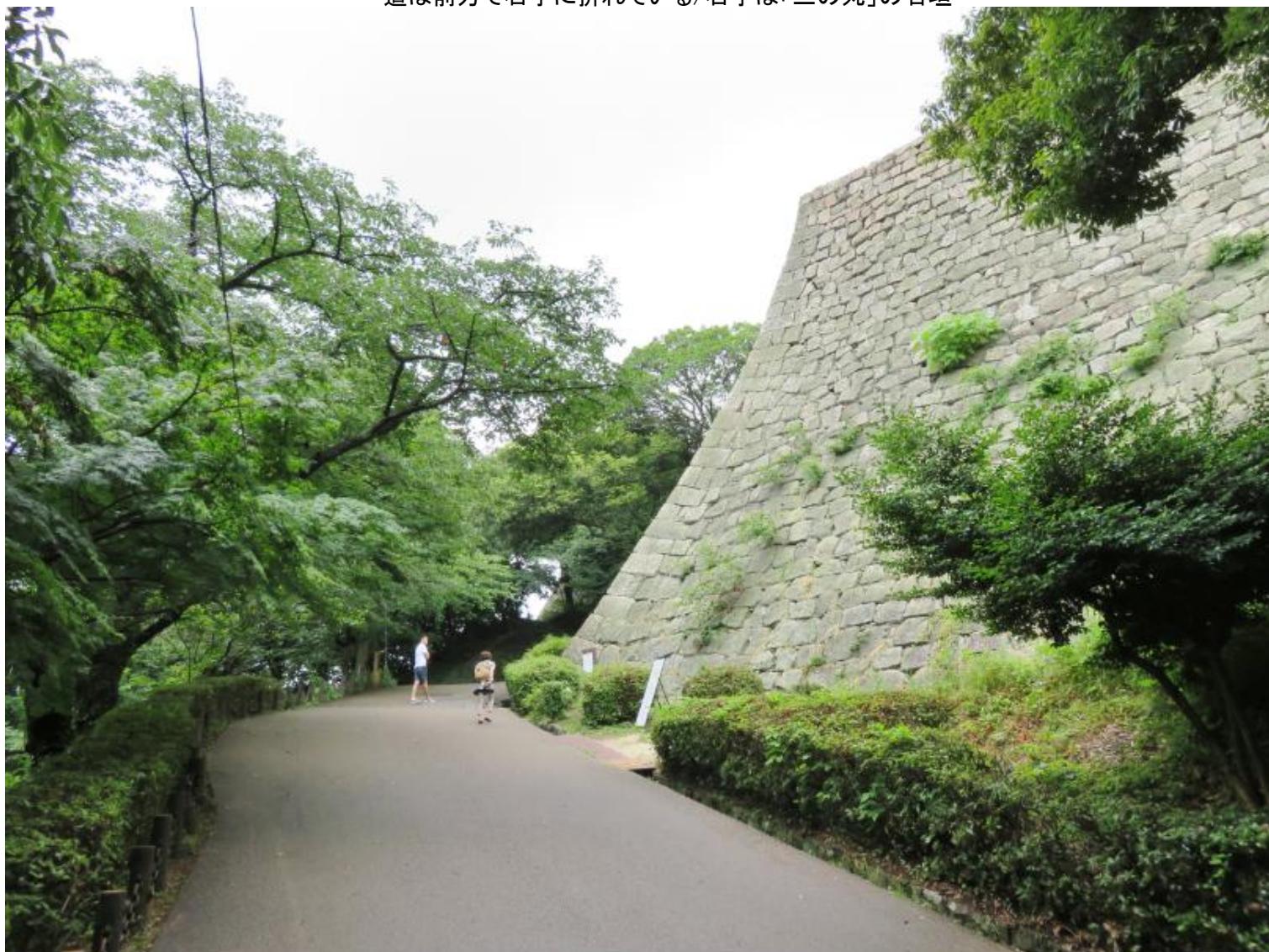
帰厚の碑

片岡政吉が丸亀市の依嘱で努力し、大正十五年亀山公園が払い下げられた。式村 茂は国へ支払う代金、公園維持費を寄附した。死後昭和十六年夏、業績を讃えて帰厚之碑と題し、市民有志が建立した。幼時に両親を亡くしたが、不運に耐え刻苦精励、大倉組社長大倉喜八郎に信任され、遂に企業家として大成した。政吉はアルプス電気株式会社を興し、茂の孫は新日本製鉄株式会社や大成建設株式会社の重鎮である。

右上には「三の丸」の石垣が見えてくる



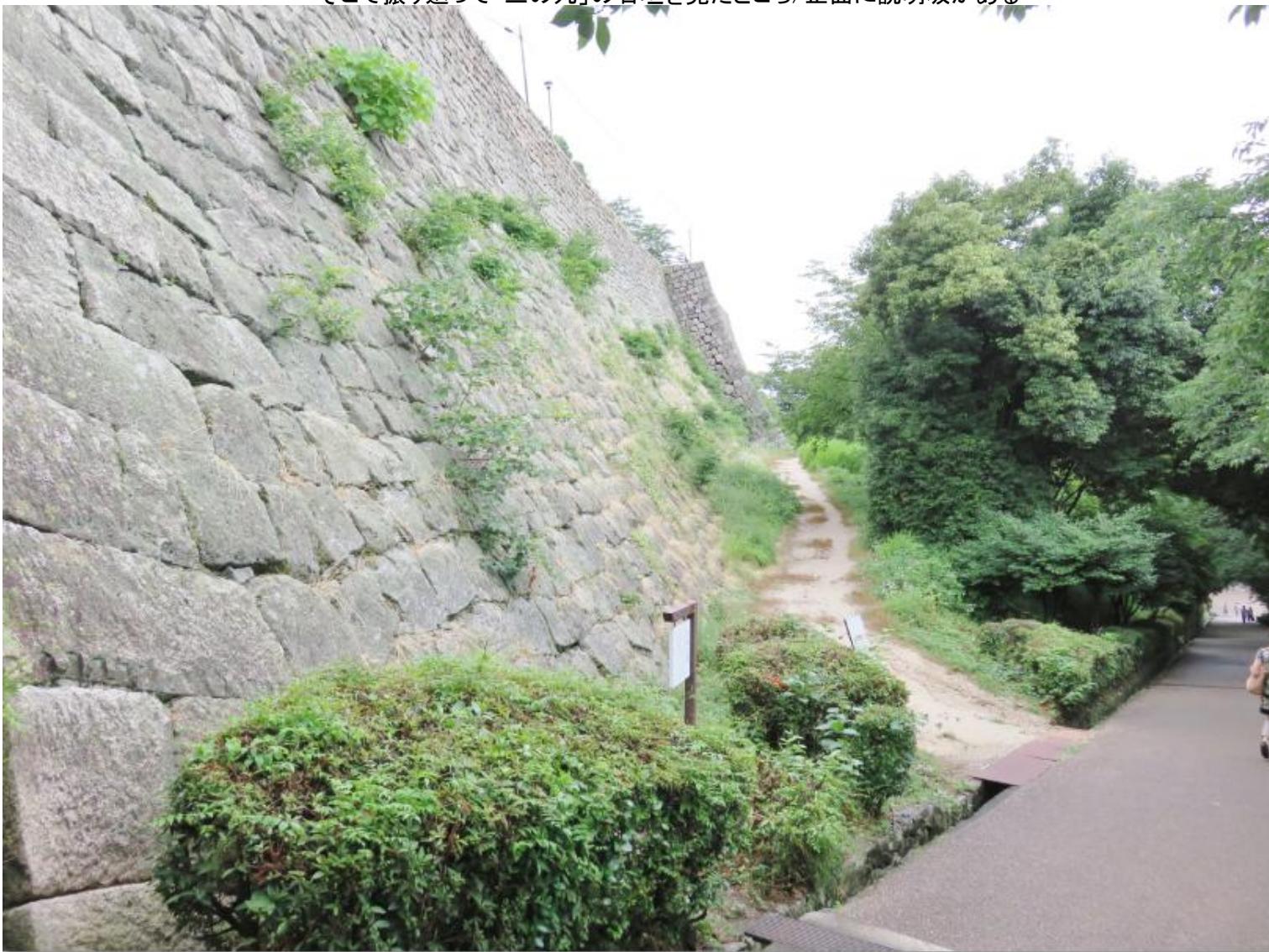
道は前方で右手に折れている/右手は「三の丸」の石垣



「見返り坂」を登り切って、右手に折れる所に標柱があった/この辺りに番所があったのだろうか



そこで振り返って「三の丸」の石垣を見たところ/正面に説明坂がある



石垣の美

一般に見返り坂と呼ばれるこの坂は、新緑の頃は楓の若葉が、秋は紅葉が楽しい。右手頭上に三の丸の高石垣が、美しさと堅固さを誇つてそそり立つ。石垣の上端で垂直に立ち、徐々に緩やかな曲線を描き、遂に土に埋れる優美な姿は、丸亀城壁の美しさである。この石垣の高さは約二二メートルあつて、本丸まで三段の高さは四〇メートルに近い。この城壁に丸亀城の風格を偲ぶことができる。

その左手を見たところ/左手にも石碑と説明坂がある



これは「高浜虚子の句碑」



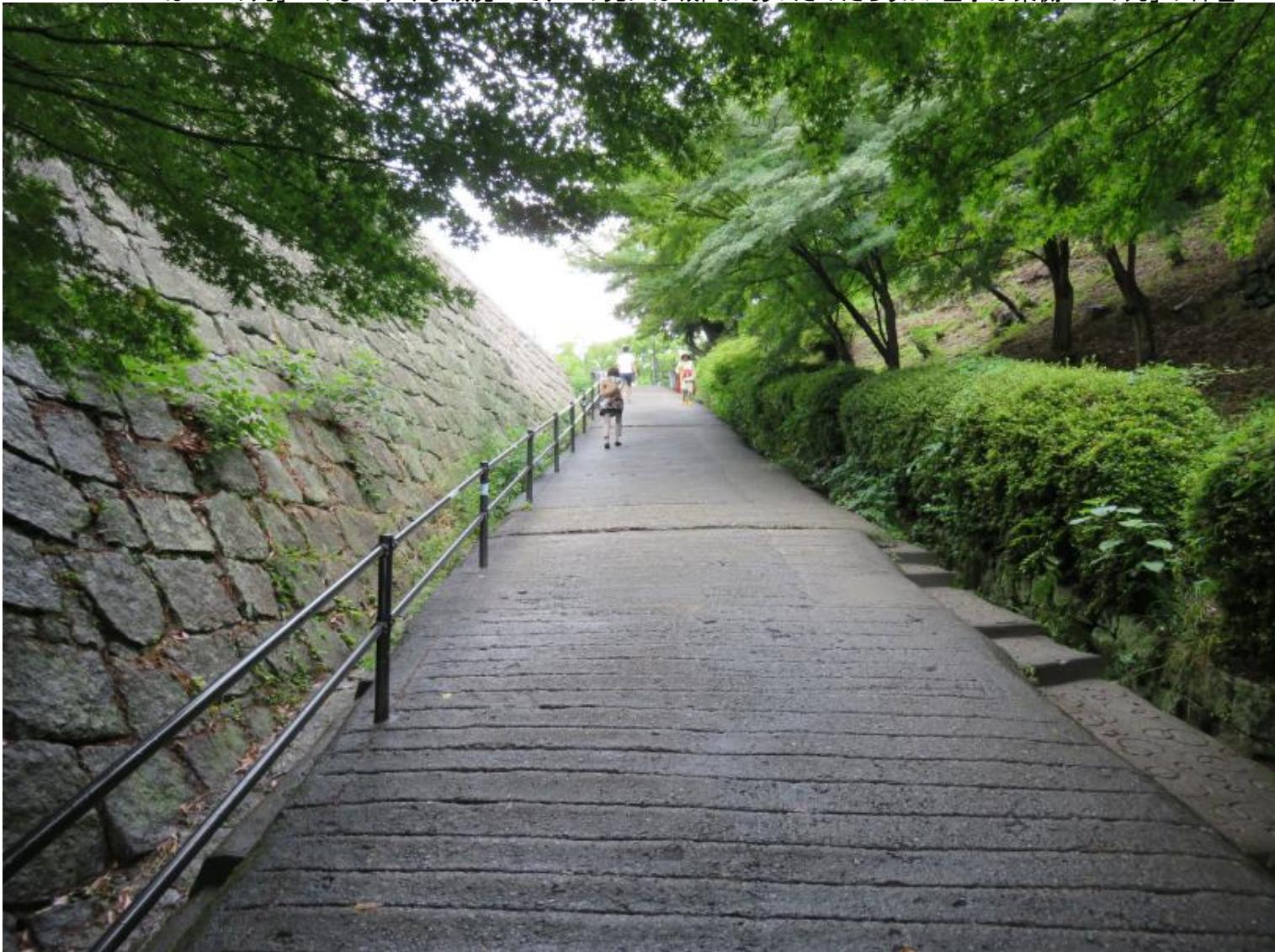
そそり立つ「三の丸高石垣」を見上げたところ



さて、更に上に登ろう/右手は「三の丸」の石垣



ここは「三の丸」へのまっすぐな坂虎口で、この先には城門があったのだろうか/左手は東側「三の丸」の石垣



少し登ると右手には「二の丸」の石垣が見えてくる/右上が「二の丸」の北側にある「番頭櫓跡(鬼門櫓跡)」



さて、ここが東側「三の丸」/南方向に見たところ



振り返って今登って来た所を見たところ/右手は東側「三の丸」の石垣



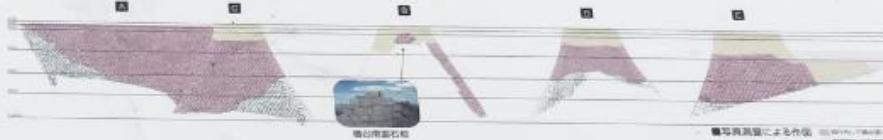
その上に登ってみよう/手前に説明坂がある



史跡 丸亀城跡 三の丸 東石垣修理工事

修復及び整備方法 (工事期間/平成9年度～14年度)

修復範囲と復元範囲
(石垣立面図)



工事の方法

石垣表面の清掃・番号付け → 石垣取り外し → 石材調査 (寸法・形状・目印等) → 造模調査 → 石垣積み直し



調査の成果

三の丸東石垣は、江戸時代に修復されていることが分かりました。

この時の修復に際し様々な発見がありました。

石金
角石・角協石の高さ調整に
用いられた磁器の鉢製
品です。



グリハ積み ①
①グリ石を直立に立ち上げて積んでいます。北側の高さ5m、南側の高さ1m、延長約30mありました。

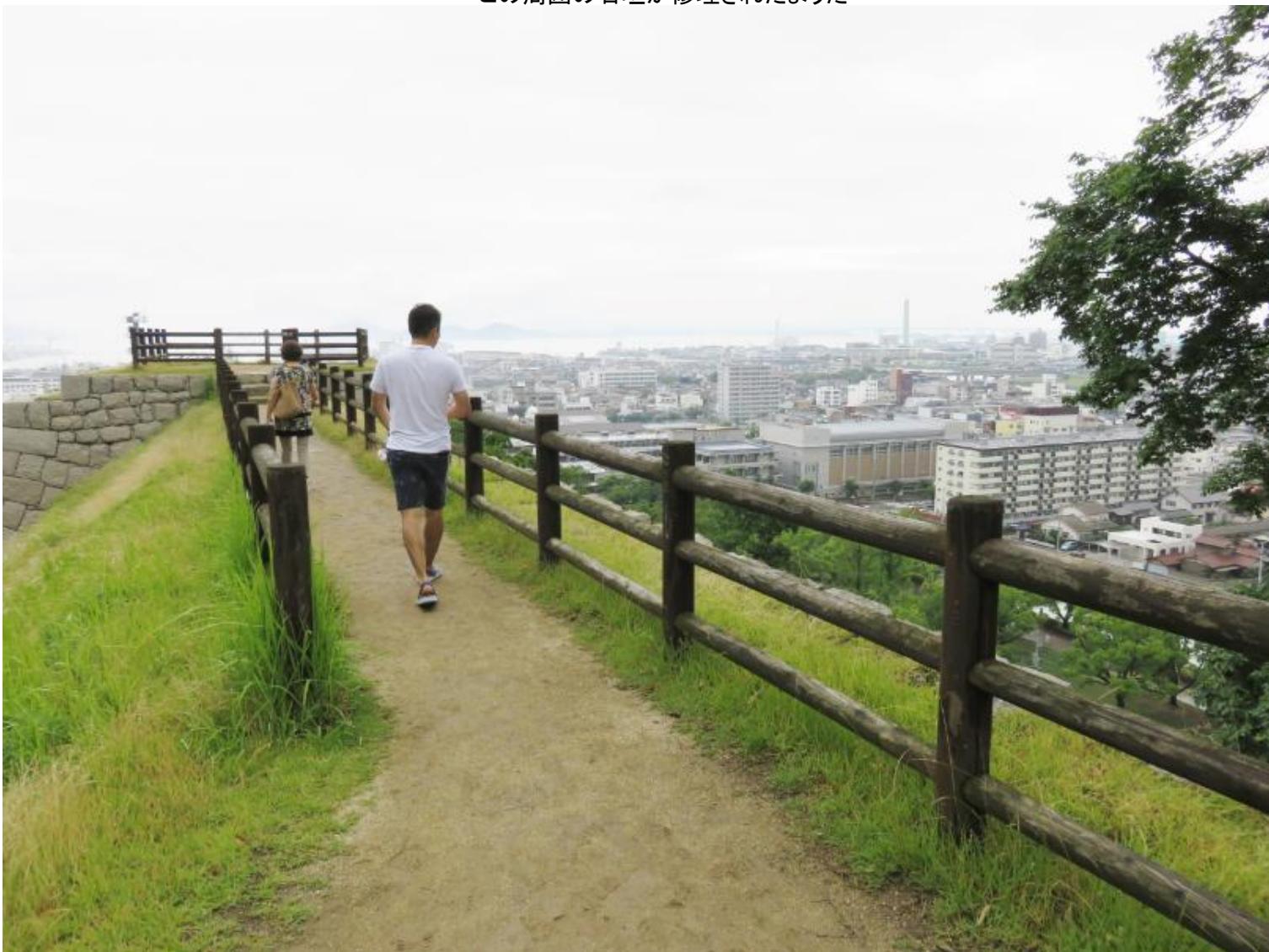
腰巻石垣 ②
腰台へ延びる土塁の土留めに造られた石垣です。

グリ石の土留め石積み ③
③腰巻石垣の下から高さ2.1m、延長4mのグリ石の石積みが見つかりました。



安山岩の土留め石積み
④のグリ石の石積みを取除くとともに
中から江戸時代以前の石積みが発見
されました。高さは0.6mから2mあり、
安山岩の割れ石を積んでいます。

この周囲の石垣が修理されたようだ



正面は櫓跡ようだ



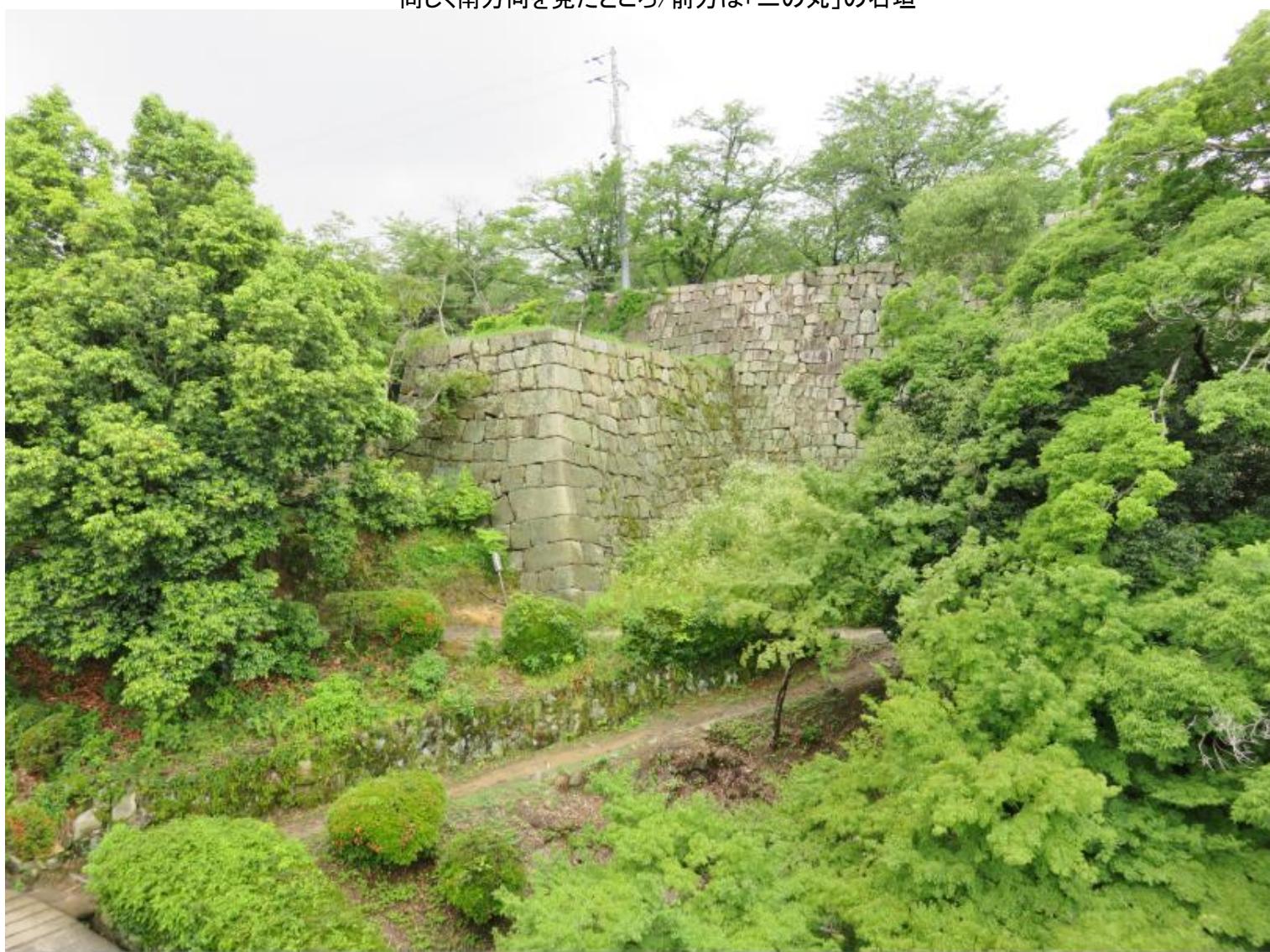
そこから北方向を見たところ/下に内堀が見える



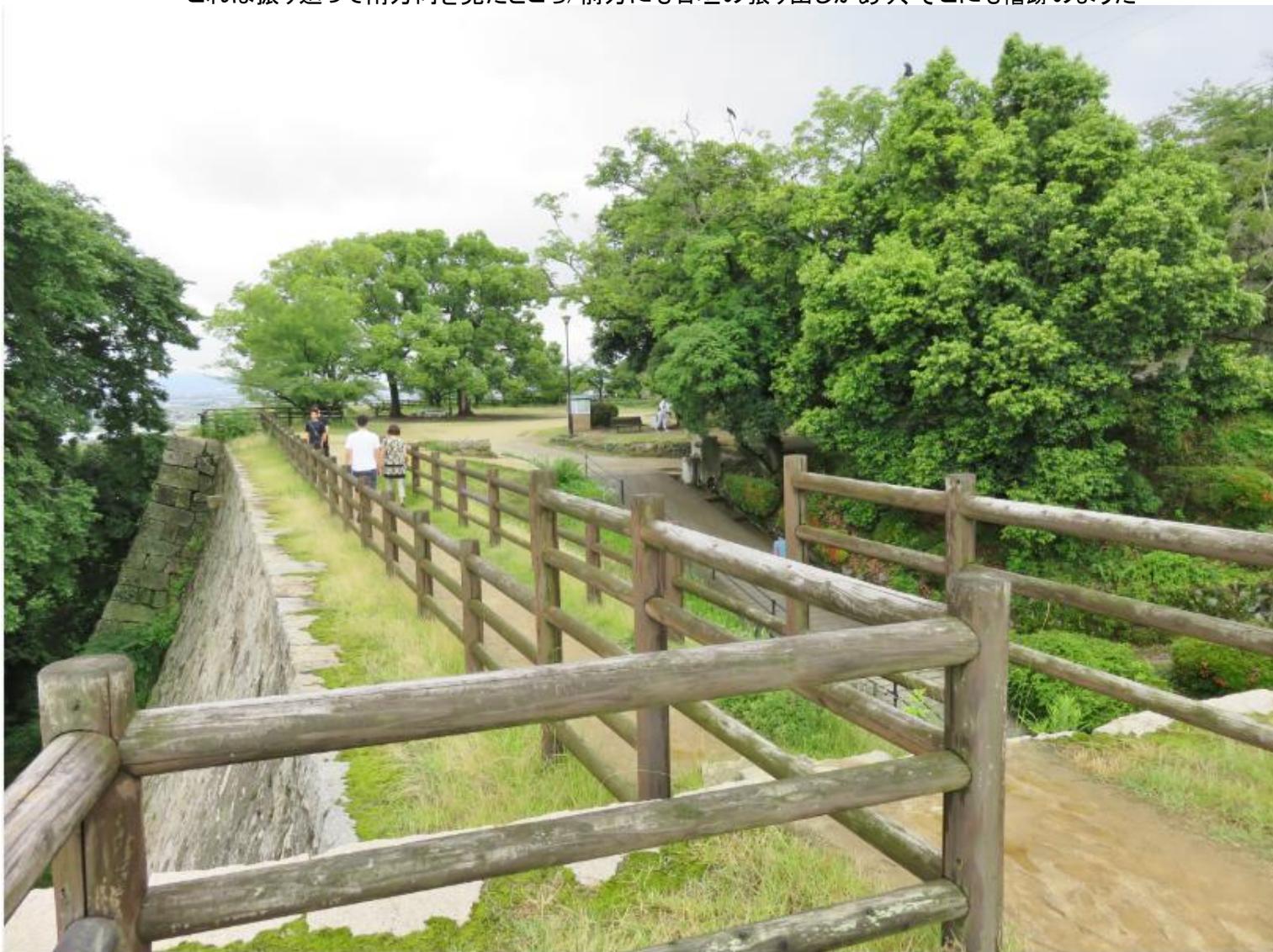
同じく西方向を見たところ/正面前方は北側「三の丸」の石垣



同じく南方向を見たところ/前方は「二の丸」の石垣



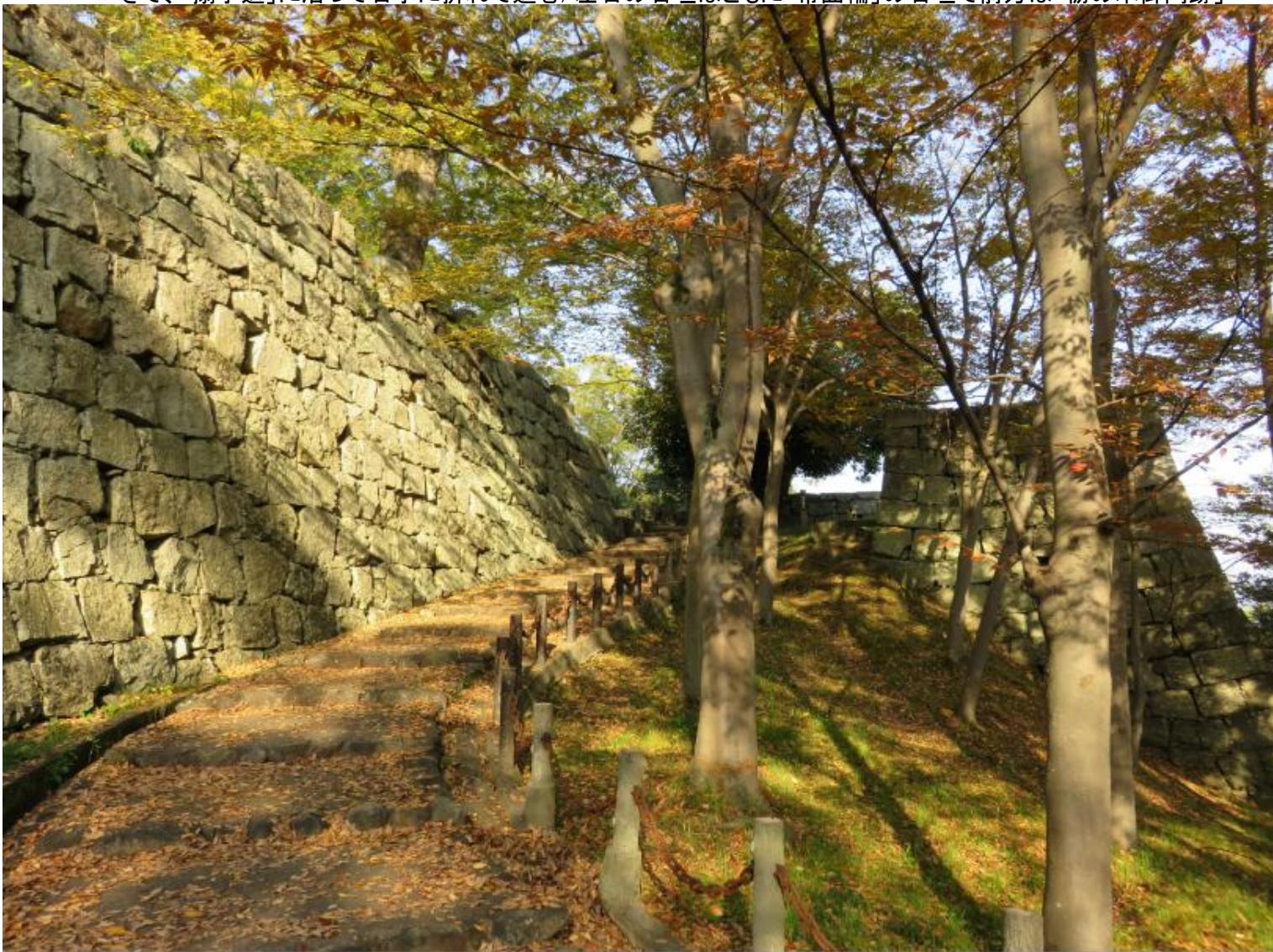
これは振り返って南方向を見たところ/前方にも石垣の張り出しがあり、そこにも櫓跡のようだ



左手の石垣を見下ろしたところ



さて、「搦手道」に沿って右手に折れて進む/左右の石垣はともに「帯曲輪」の石垣で前方は「柵の木御門跡」



まず、右手の石垣の下を進んでみよう



石垣の向こうに進んで振り返って見たところ/左手の石垣の上が「柾の木御門跡」/この「帯曲輪」の石垣は右手に延びていて、先程「野面積み」の石垣の右端から見上げた「月見櫓跡」下へと続いている



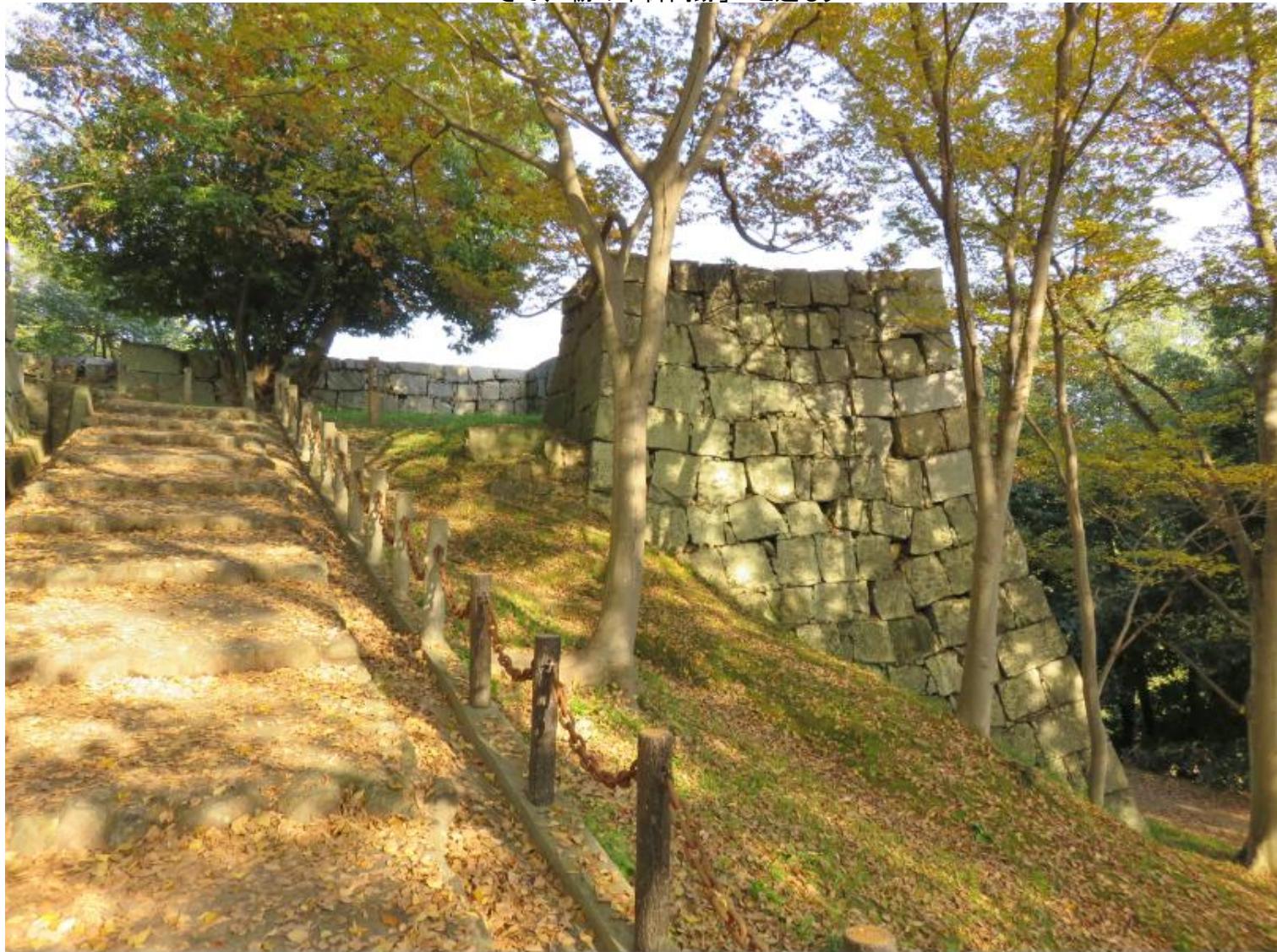
「桟の木御門跡」の石垣の角を見上げたところ/美しく丁寧に積まれている



そこで右手を見たところ/この先は「月見櫓跡」下へと延びている



さて、「柾の木御門跡」へと進もう



ここが「桟の木御門跡」/正面に標柱が立っている





そこで振り返って今登って来た方向を見たところ



これは「桟の木御門跡」の石垣の上で東方向を見たところで、正面の山が讃岐富士



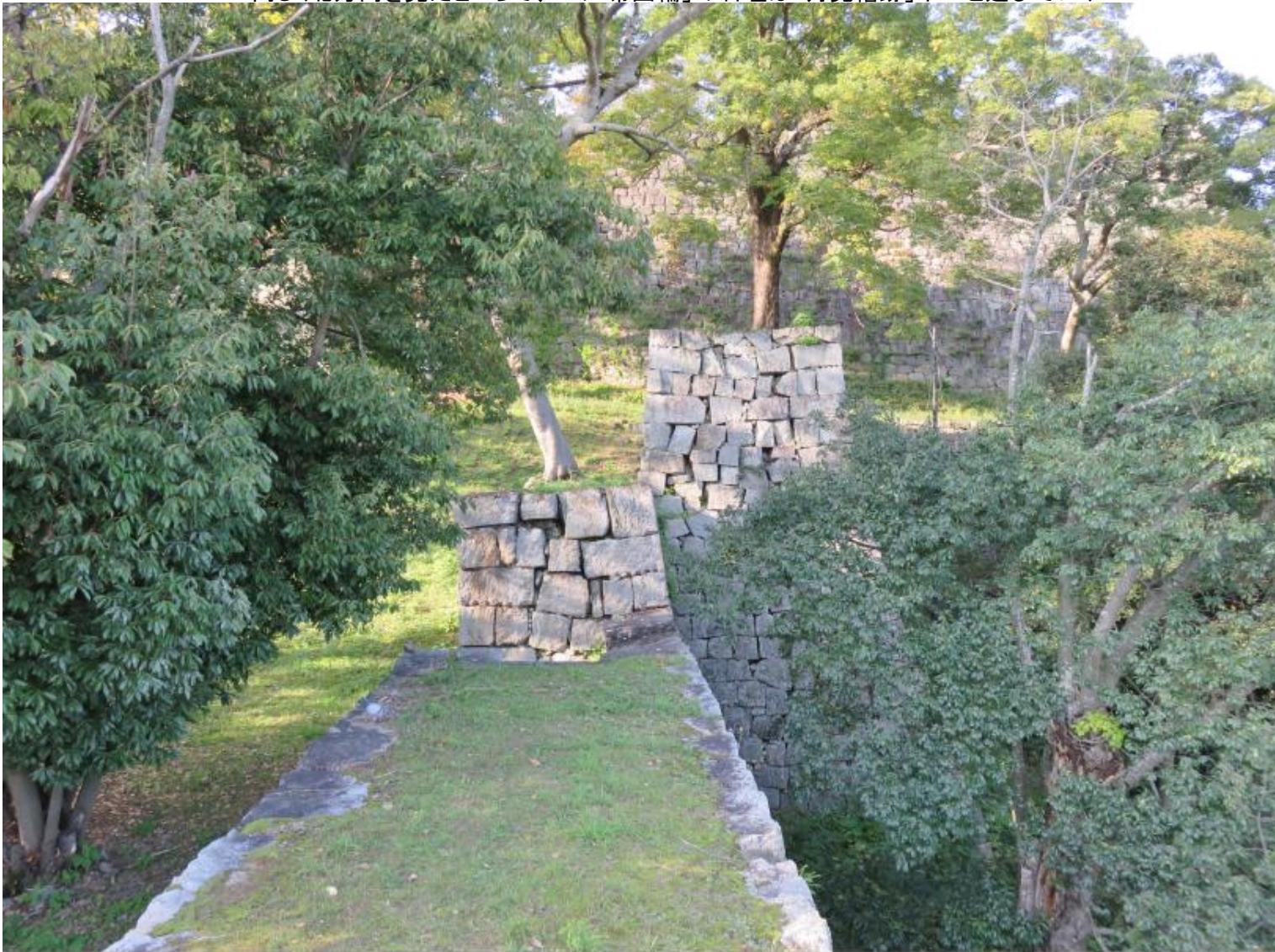
真下を見下ろしたところ



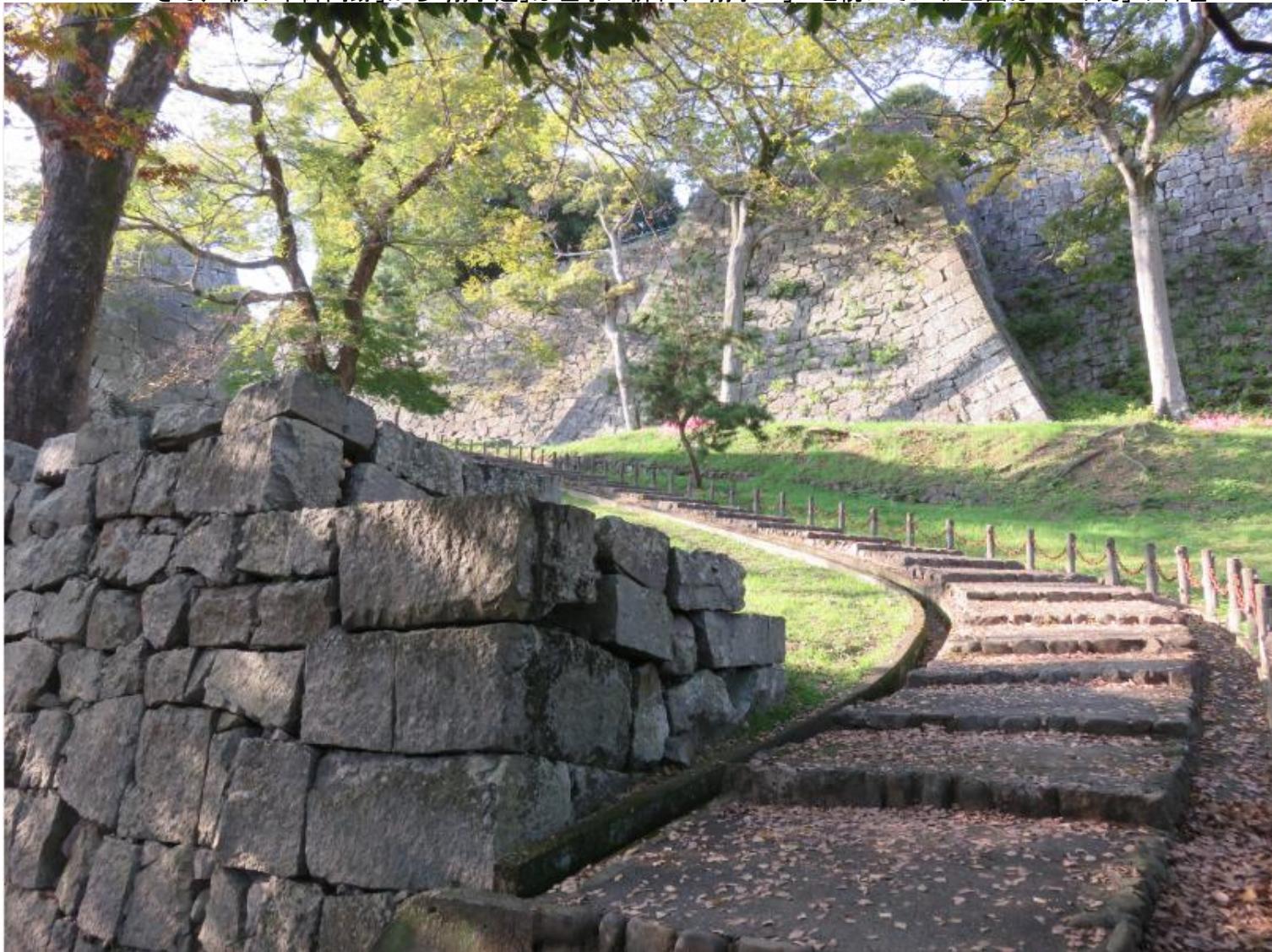
そこで西方向に「帯曲輪」の石垣の上を見たところ/前方に階段があり、右下の「柵の木御門跡」に下りるようになっている



同じく北方向を見たところで、この「帶曲輪」の石垣は「月見櫓跡」下へと延びていく



さて、「桟の木御門跡」から「搦手道」は左手に折れ、「搦手口」へと続いていく/正面は「三の丸」の石垣



少し左手を見たところで、手前は「帯曲輪」の石垣、その向こうに見えるのが「搦手口」の石垣、右手は「三の丸」の石垣



これはそこで右手を見たところで、正面は先程「柾の木御門跡」の石垣の上で北方向に見た「月見櫓跡」下へと延びていく「帯曲輪」の石垣/左上は「三の丸」の石垣



これはその左上の「三の丸」の石垣を見たところ/石垣上の「三の丸」右端の所が「月見櫓跡」



更に「搦手口」へと進み、右手を見たところで、これが「三の丸」の石垣/この上に既に見た延寿閣別館がある



これはそこで左手を見たところで、正面は「搦手口」の石垣で、手前部分の石垣の上が「玉櫓跡」/右手は「三ノ丸」の石垣



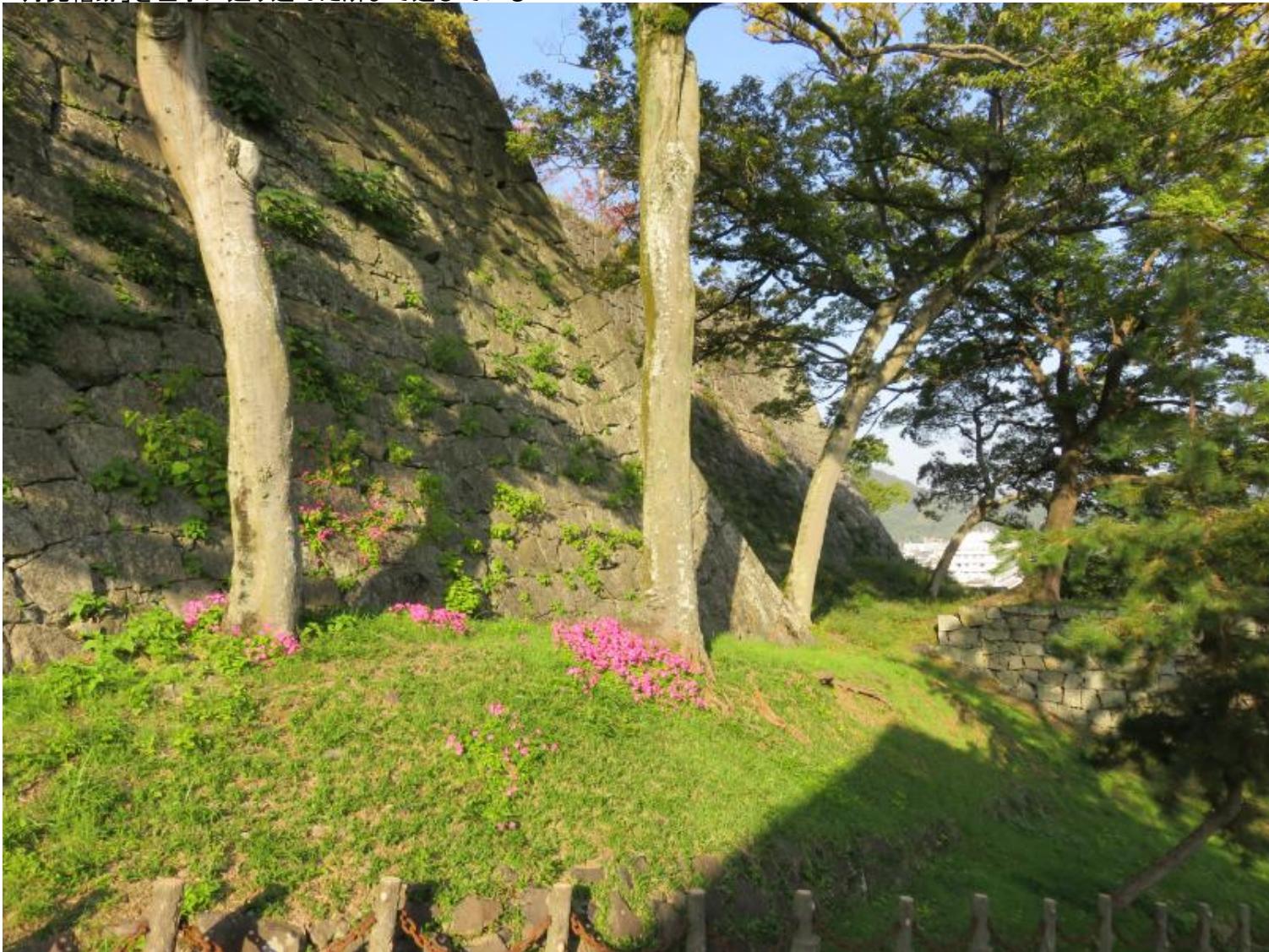
さて、この先が「搦手口」の虎口



そこで振り返って今登って来た方向を見たところ



その左手を見ると、左手の「三の丸」の石垣の右下に僅かながら「帯曲輪」の平場が見て取れる/「帯曲輪」のこの先は「三の丸」の「月見櫓跡」を左手に廻り込んだ所まで延びている



さて、ここが「搦手口」/正面は「三の丸」の石垣/右手に登って行くと「三の丸」



もう一度振り返って今登って来た方向を見たところ/右手の石垣の上が「玉櫓跡」



正面が「玉櫓跡」/ここからも讃岐富士が見える



別の角度から「搦手口」の「玉櫓跡」を見たところ



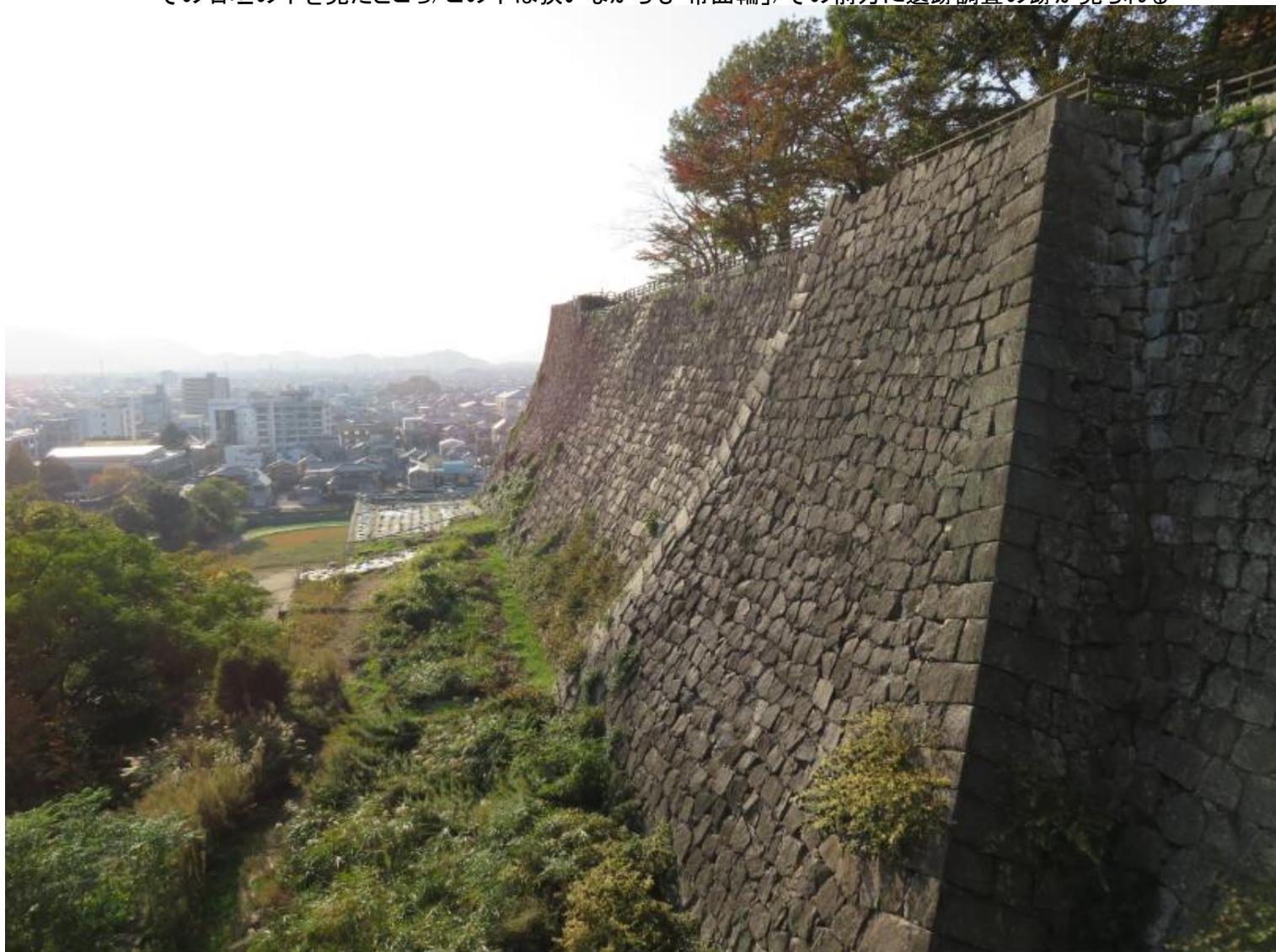
そこから北方向に「三の丸」への虎口を見たところ/下の段は「三の丸」の石垣で、上の段は「二の丸」の石垣/左手の更に上の段は本丸の石垣のようだ



そこで左手を見たところ/正面は「三の丸」の石垣



その石垣の下を見たところ/この下は狭いながらも「帯曲輪」/その前方に遺跡調査の跡が見られる



アップで見たところ/これが遺跡調査の跡に見えた箇所



これは振り返って「搦手口」の虎口方向を見たところ



さて、「三の丸」へと進もう/正面は「二の丸」の石垣で張り出した所は「五番櫓跡」



振り返って「搦手口」を見たところ



ここが「三の丸」/「二の丸」石垣の左手を見たところ



同じく右手を見たところ/こちらへ進むと既に見た「三の丸」の延寿閣別館がある



それでは「三の丸」を左手(西方向)に進もう/前方に一寸したマウンドが見える



これがそのマウンド/上に説明坂が立っている



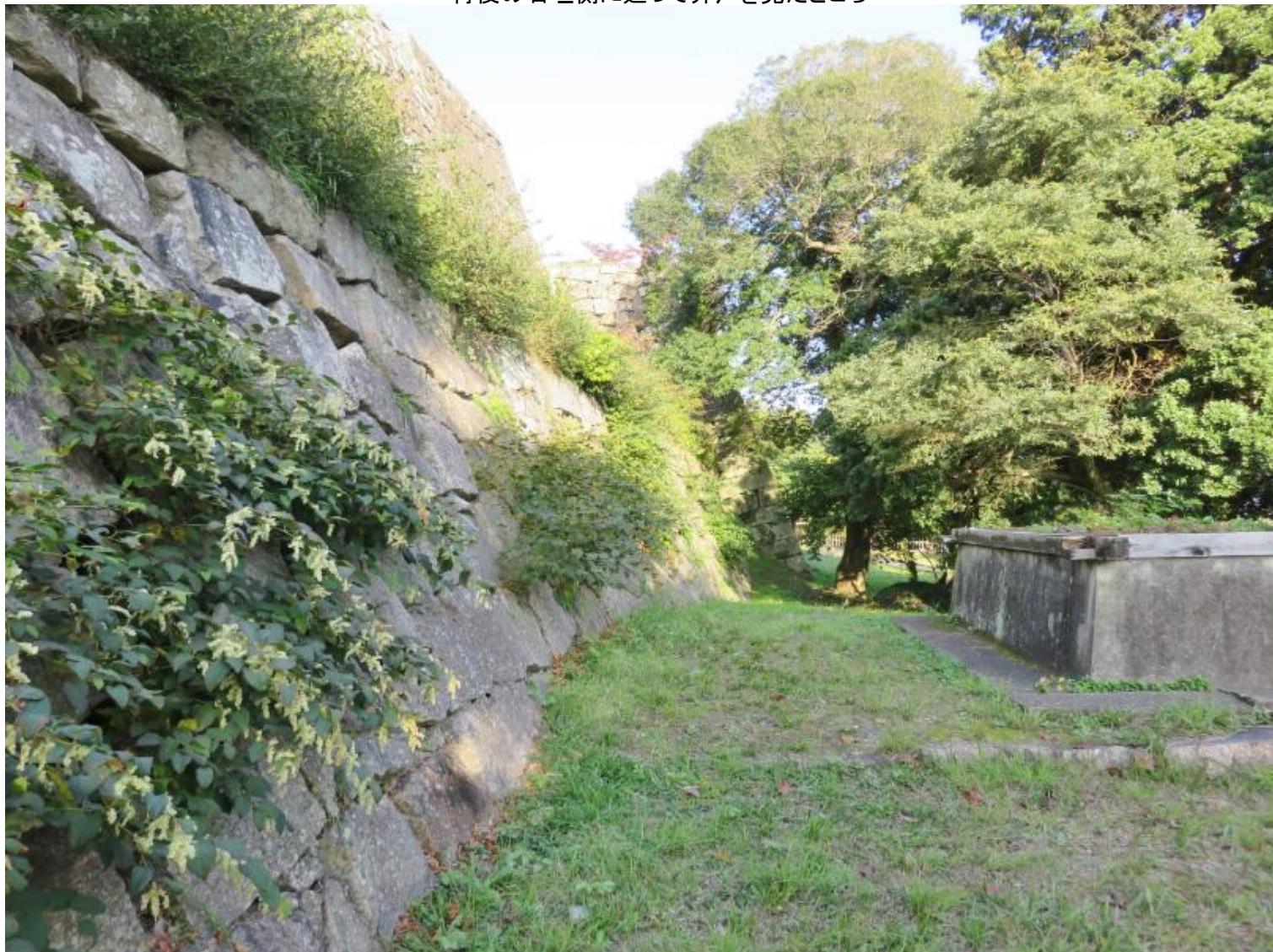
正面は「三の丸井戸」/背後には低い石垣(ハバキ石垣あるいはサヤ石垣と云うようだ)があり、その奥に「本丸」の石垣がある



三の丸井戸

団いは東西南北とも約三、五メートル、井戸の直径は約二、五メートルであり、山崎時代の絵図によると深さは三十一間（約五六メートル）と記されており、石垣と同じ花崗岩を使って丈夫に築かれている。現在は空井戸となつており、城外への抜け穴伝説がある井戸である。

背後の石垣側に廻って井戸を見たところ



これが「三の丸井戸」



さて、前方は「三の丸」の南隅にある「水手櫓跡(坤櫓跡)」



アップで見たところ/その周囲は遺跡調査の跡であろうか



さて、「三の丸」を南側から西側へと進もう



これはそこからハバキ石垣越しに右手の井戸方向を見たところ



西側の「三の丸」を進むと石垣に折れがある/この辺りも櫓跡であろうか



そこを別の角度から見たところ



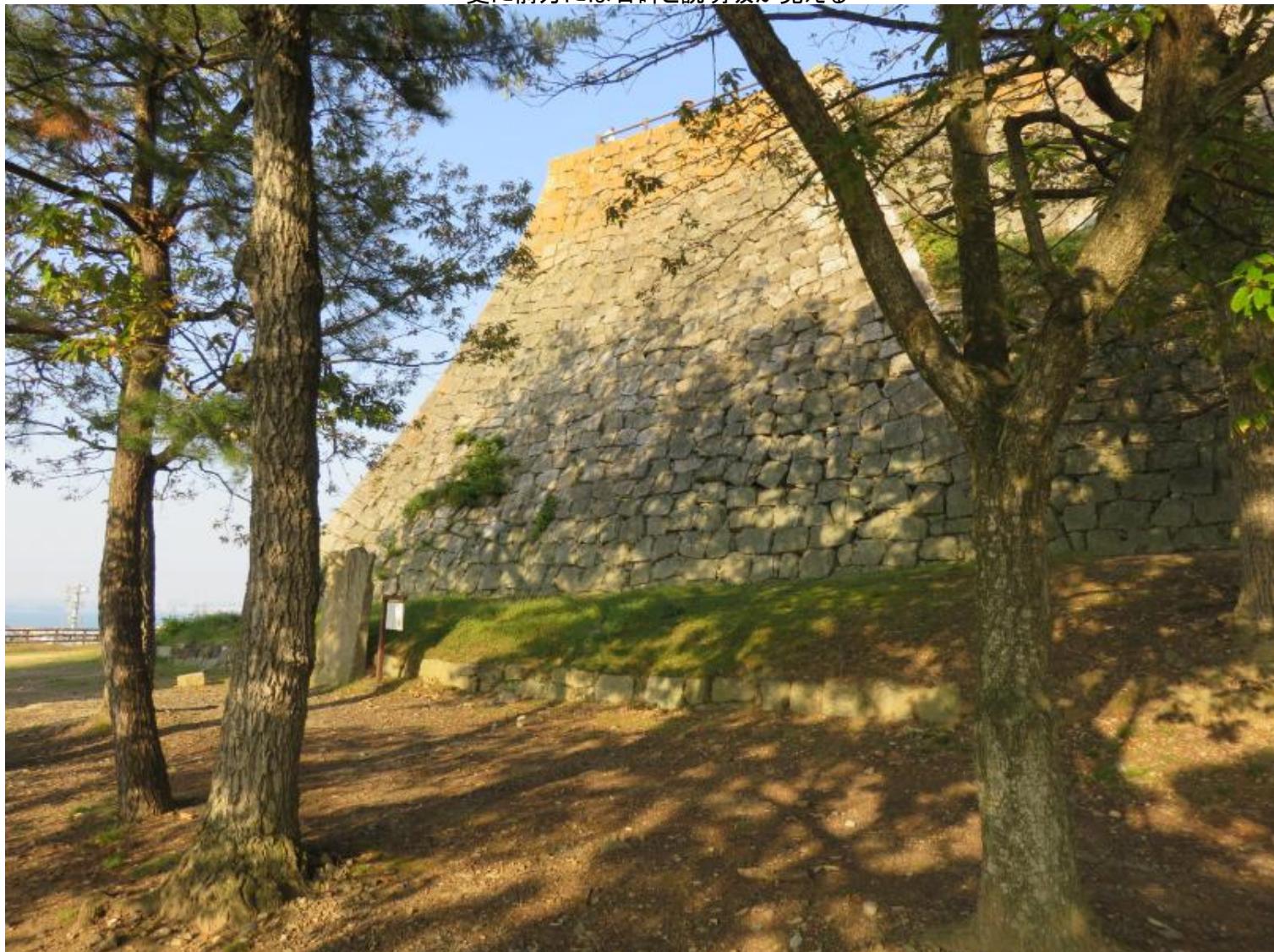
更に「三の丸」を北方向に進む



右手を見ると発掘調査で出てきたと思われる石が積み上げられていた



更に前方には石碑と説明坂が見える



これは吉井勇の歌碑



吉井 勇の歌碑

人麿の歌かじこしとおもひつゝ
海のかなたの沙弥島を見る 勇

昭和十一年、招かれて高知から来た吉井
勇は、このお城から東北の方、沙弥島を眺め
、柿本人麿の歌を思い起こし、右の歌を詠ん
だものである。

昭和二十四年の市制五十周年を記念し、壱子
の句碑とともにこの歌碑を建立した。

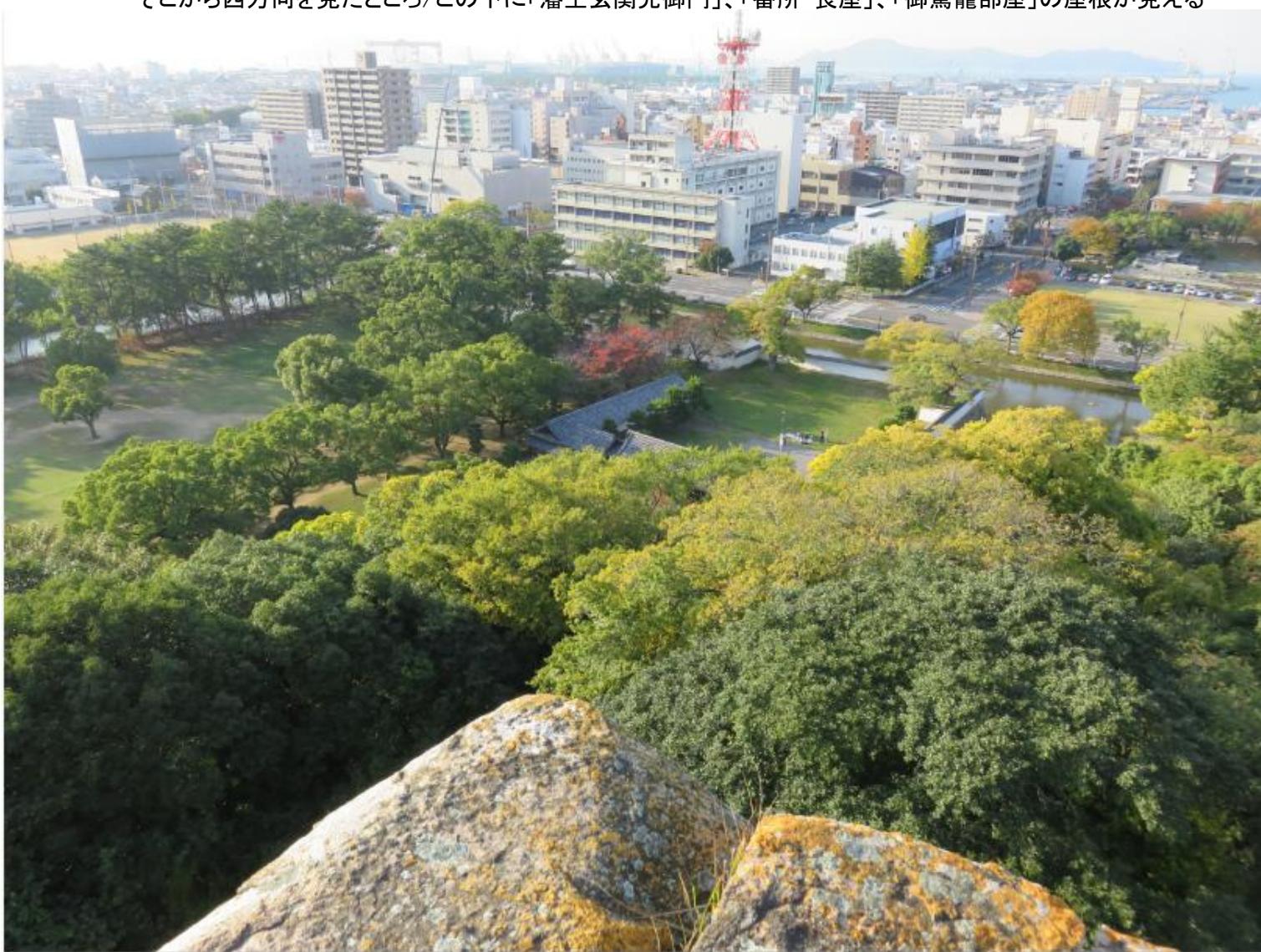
さて、ここは「三の丸」の西隅にある「七間櫓跡(戌亥櫓跡)」



「七間櫓跡(戌亥櫓跡)」が明治2年の藩邸火災で焼け、礎石が赤く変色した跡が残っていると云う



そこから西方向を見たところ/この下に「藩主玄関先御門」、「番所・長屋」、「御駕籠部屋」の屋根が見える



同じく北方向を見たところ/右手は「三の丸」の石垣で幾つもの折れが見て取れる/出隅は算木積みの高石垣が見て取れる



その右手を見たところ/正面に「二の丸」の石垣、右上に「本丸」の石垣と「天守」が見える



そのまた右手を見たところ/正面中央は「三の丸」から「二の丸搦手」虎口を登って「二の丸」へ至るルート/右手は「本丸」の石垣



「天守」を見上げたところ



「本丸」の石垣を見たところ/正面の張り出しの上は「姫櫓跡」



さて、北側の「三の丸」を東方向に進もう



正面は「二の丸」の石垣で、この上は「長崎櫓跡」/手前に説明坂がある



二

の丸長崎櫓跡

ながさきやぐらあと

長崎櫓跡は、石垣高約12m、広さ東西5間（約9.4m）、南北4間（7.6m）で、石垣上部から約60cmの深さに建物の礎石がありました。

平成3～4年度の石垣修理工事で石垣内部の構造がわかりました。内部には、土砂と礎石を層状に突き固め版築した盛土があり、石垣と盛土の間には、安山岩の角礎を用いた栗石が約2m幅で入れられていました。

この栗石層は石垣内の水抜きや土圧の緩和作用があると言われています。



二の丸長崎櫓跡 内部（西から）

丸

亀市教育委員会

ここが「二の丸搦手」虎口/この上が「二の丸」



そこで左手を見たところ/石垣の折れが見て取れる



その石垣面には東側の石垣にもあった雨水排水口が見える



アップで見たところ



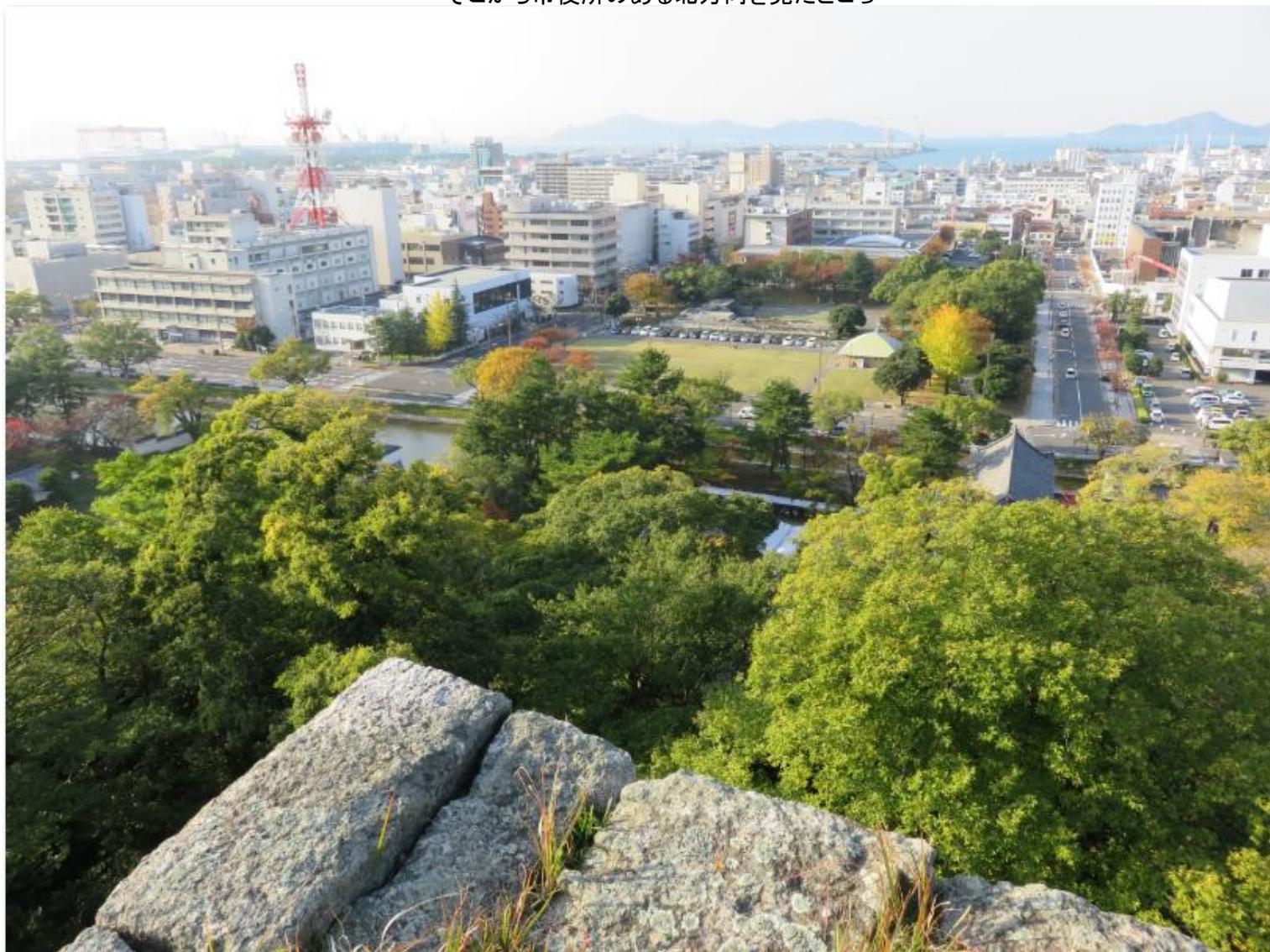
こちらの折れの張り出しには標柱が立っている



「三の丸跡」とある



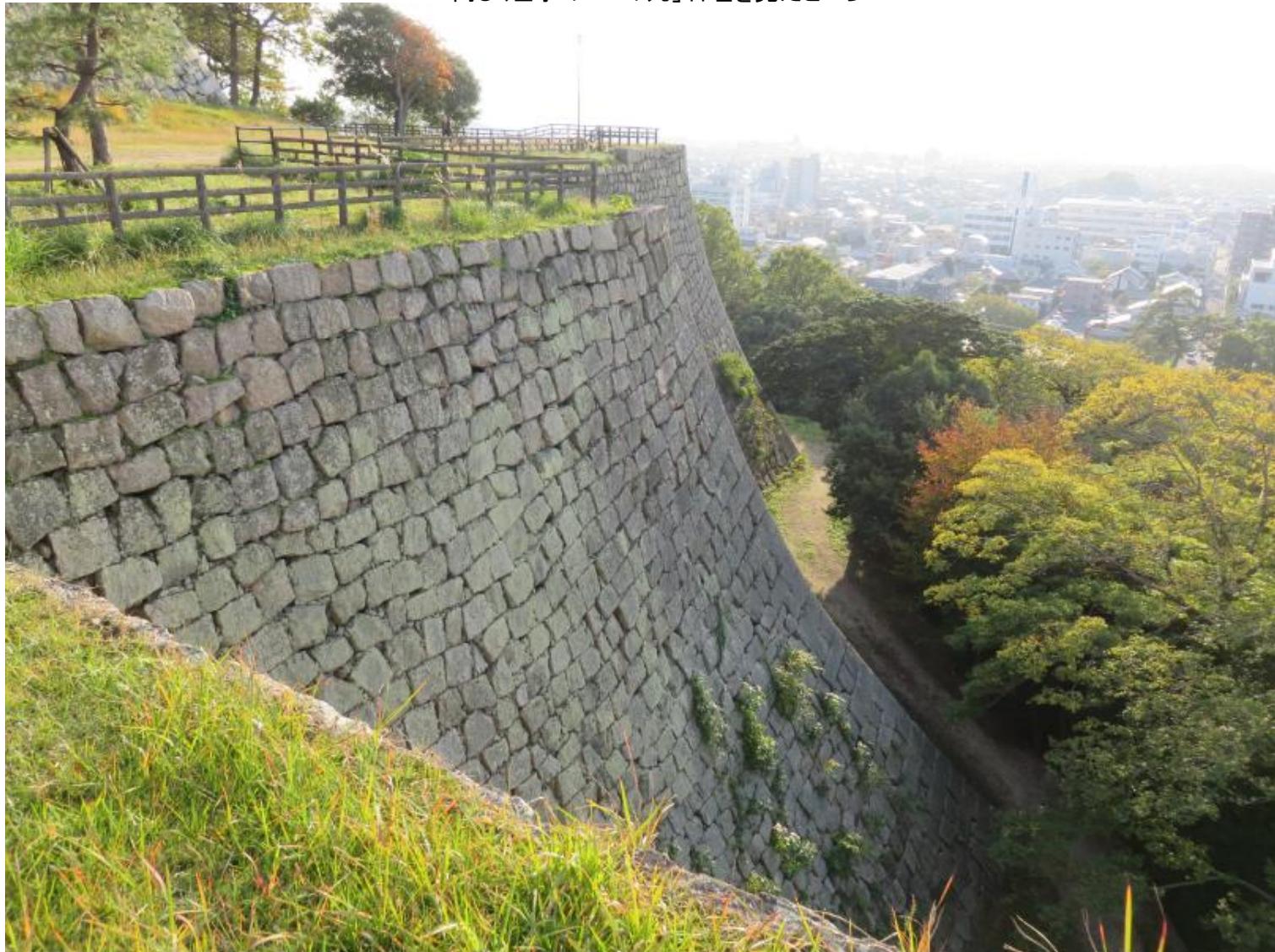
そこから市役所のある北方向を見たところ



市民広場をアップで見たところ/この辺り一帯は武家屋敷であったようだ



同じく左手の「三の丸」石垣を見たところ



「三の丸」は東方向のこの先で右手(南方向)へ折れて下って行き、最初に「見返り坂」から登って来た所の「三の丸」へと繋がる



そこで振り返って西方向に「三の丸」を見たところ



これは北側から「天守」を見上げたところ



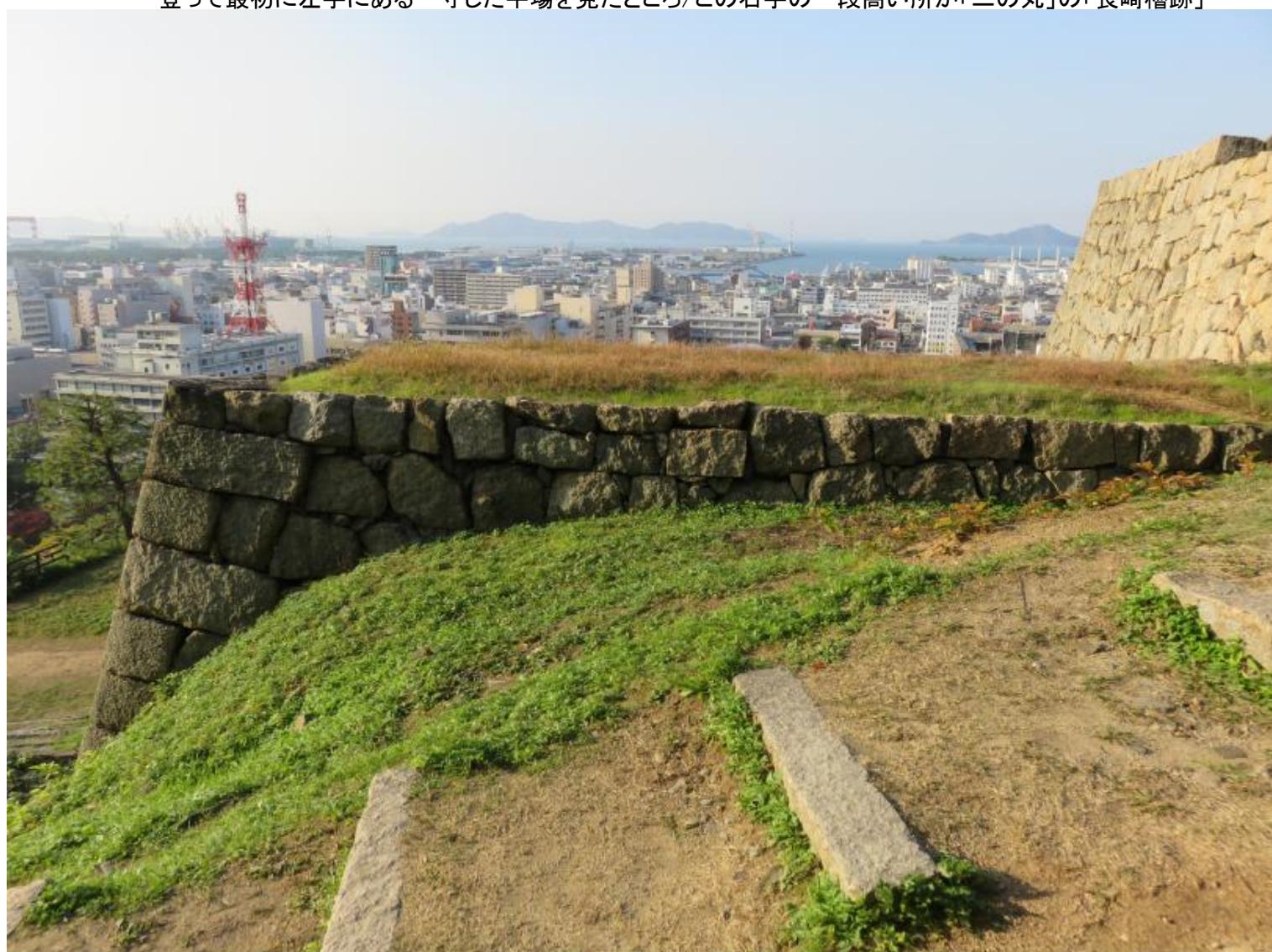
アップで見たところ



さて、ここが「二の丸搦手」虎口/この上の「二の丸」へ登ろう



登って最初に左手にある一寸した平場を見たところ/この右手の一段高い所が「二の丸」の「長崎櫓跡」



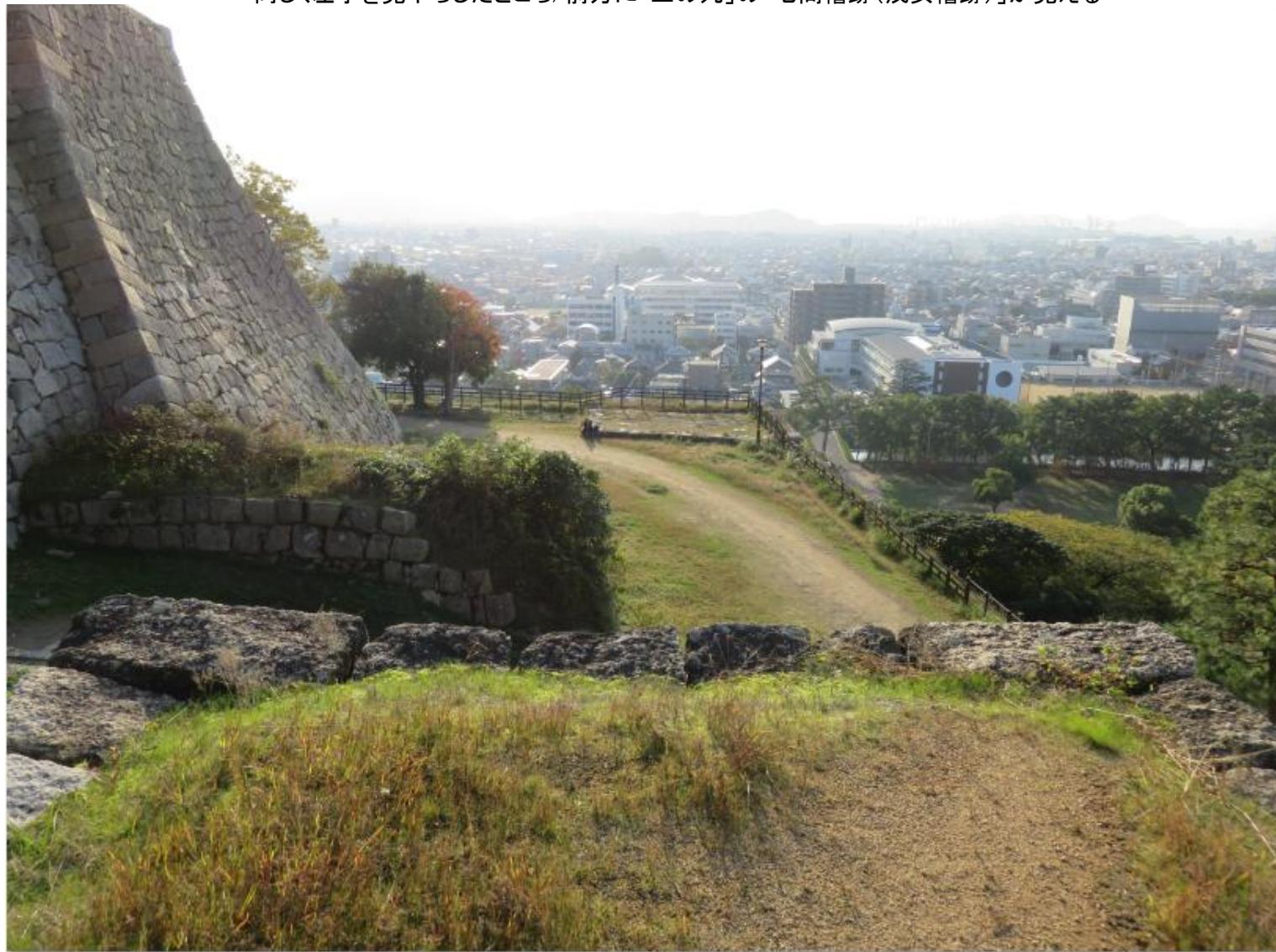
そこから北側を見下ろしたところ/下は「三の丸」



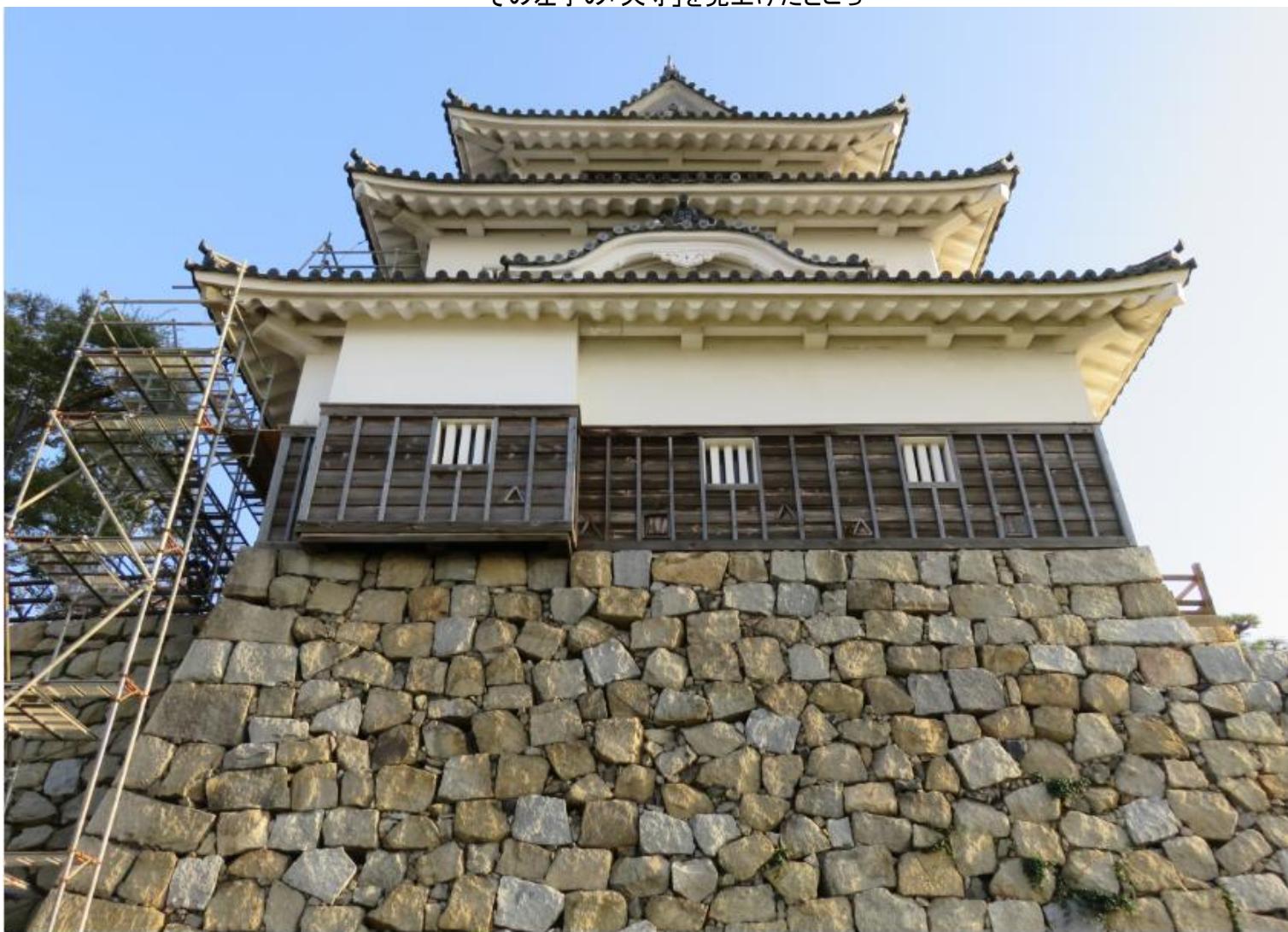
同じく右手を見ると、この上が「二の丸」の「長崎櫓跡」



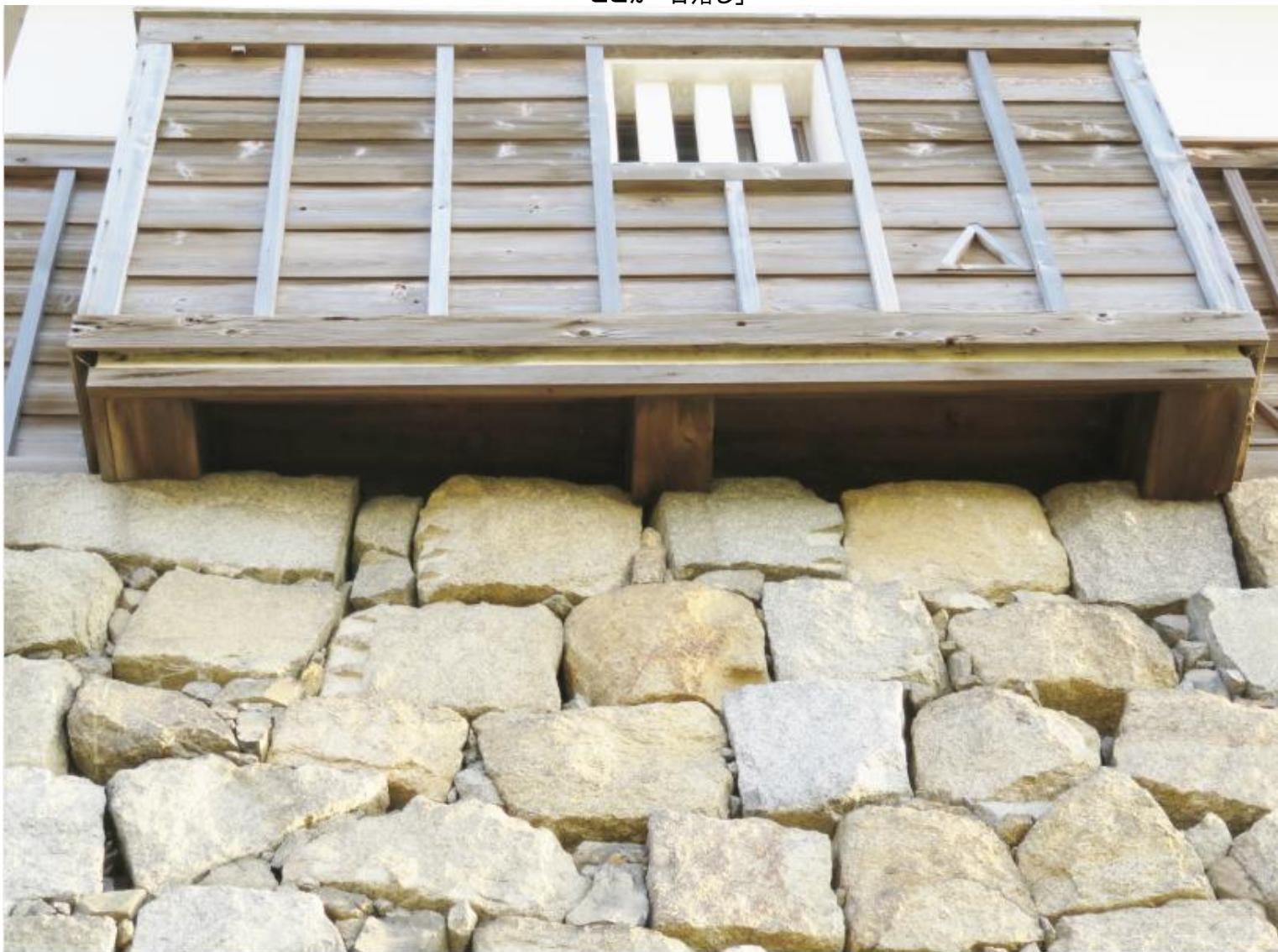
同じく左手を見下ろしたところ/前方に「三の丸」の「七間櫓跡(戌亥櫓跡)」が見える



その左手の「天守」を見上げたところ



ここが「石落し」



その下の石垣を見たところ/ここは「打ち込み接ぎ」



東側から西方向に「二の丸」の「長崎櫓跡」を見たところ



「長崎櫓跡」から北方向を見たところ



同じく「二の丸搦手」虎口方向を見たところ



一寸した平場越しに西方向を見たところ



その左手の「天守」を見たところ/石垣下に門跡がある



正面が門跡



門柱の礎石が残っている



アップで見たところ



反対側にも残っている/前方は「長崎櫓跡」



これは「長崎櫓跡」から東方向に「二の丸」を見たところ/前方の隅に「番頭櫓跡(鬼門櫓跡)」が見える/右手は「本丸」の石垣で、その上は「天守」の東側にある「塩櫓跡」のようだ



ここが「二の丸」を東方向に進んだ所/「二の丸」は右手の「本丸」石垣を廻り込むように右手に折れている



これはそこで振り返って「二の丸搦手」虎口を見たところ/右手が「長崎櫓跡」



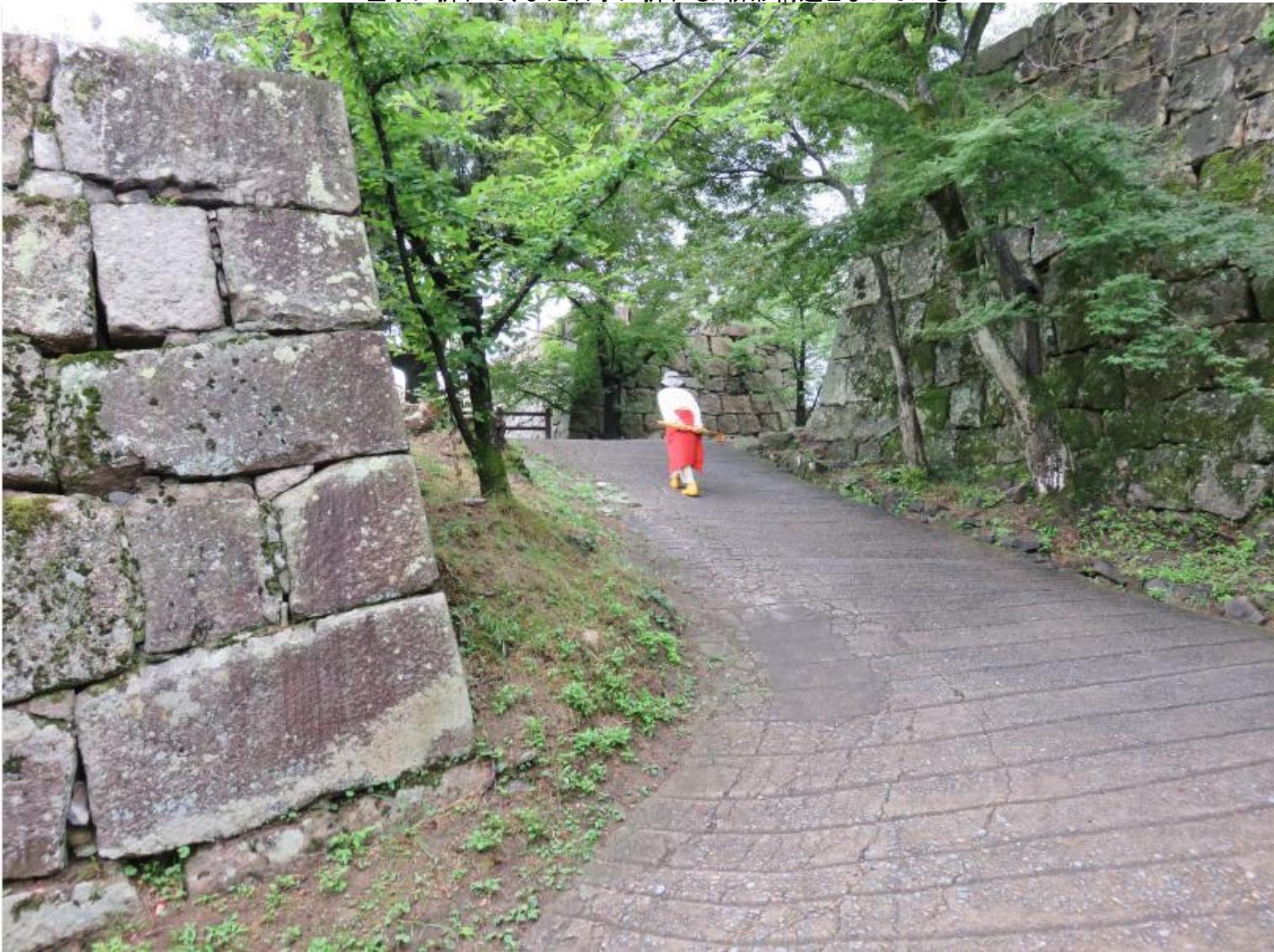
さて、いよいよ「見返り坂」を登って行った「三の丸」にあった「二の丸」への坂虎口を進んでみよう



両サイドは「二の丸」の石垣



左手に折れて、また右手に折れる/枡形構造となっている



左手に「二の丸」の石垣が見える



ここが「二の丸」



振り返って柵形の坂虎口を見たところ



標柱が立っている/右手前方は「本丸」の石垣



「二の丸」から枡形虎口を見たところ



右手を見たところ/周囲には石垣(その上はそれぞれの櫓を結ぶ渡櫓があった)が廻っている



更に右手を見たところ



これは柵形虎口の右手の石垣を東方向に見たところ/右手の張り出しが「辰巳櫓跡」



これは南側の渡櫓の石垣を南方向に見たところ/石垣への登り口がある



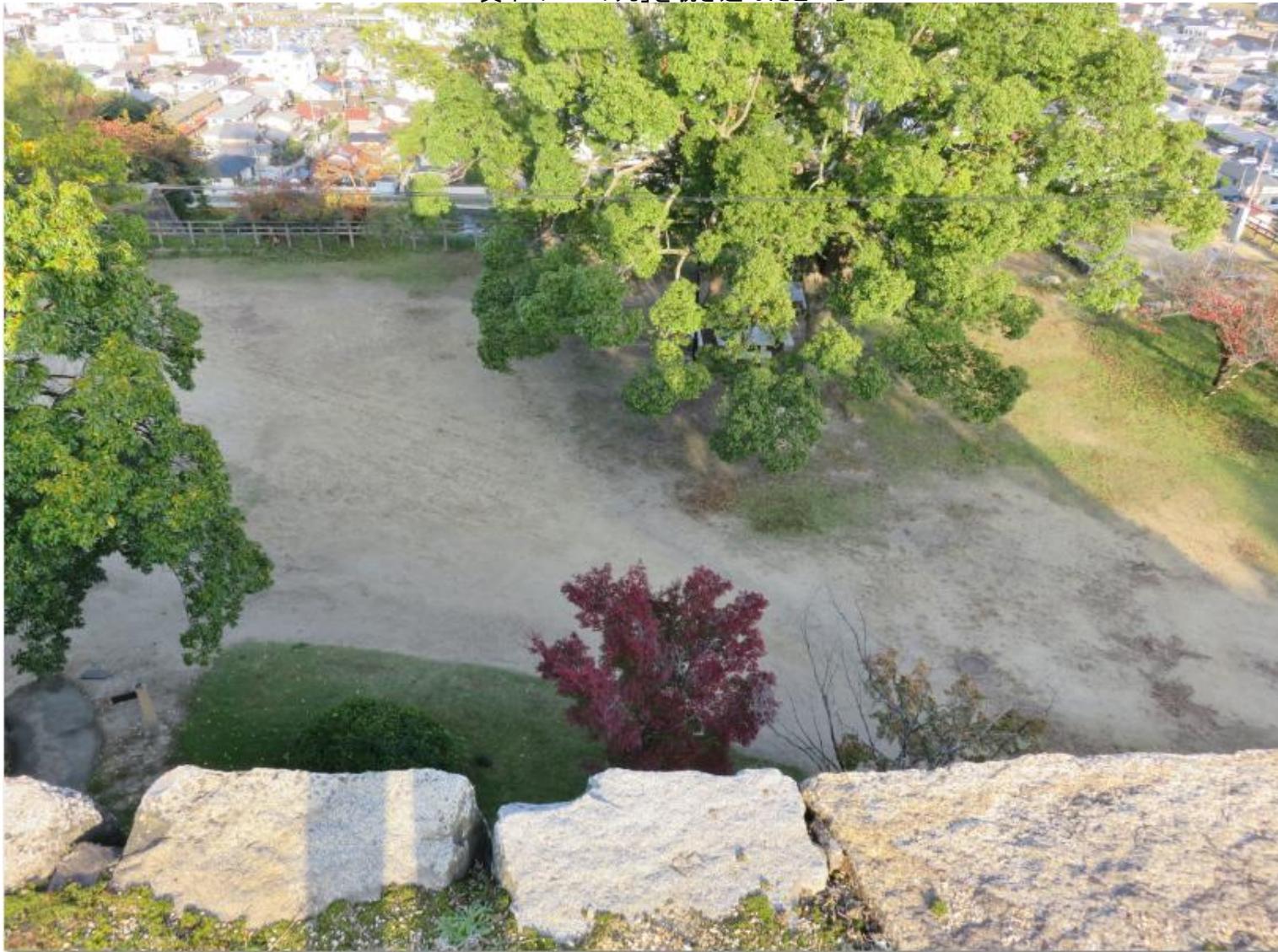
石垣の上に登って東方向に「辰巳櫓跡」を見たところ



その「辰巳櫓跡」から東方向の讃岐富士を見たところ/この真下は「二の丸」



真下の「二の丸」を覗き込んだところ



これは「辰巳櫓跡」から北方向を見たところで、前方の下が枡形虎口



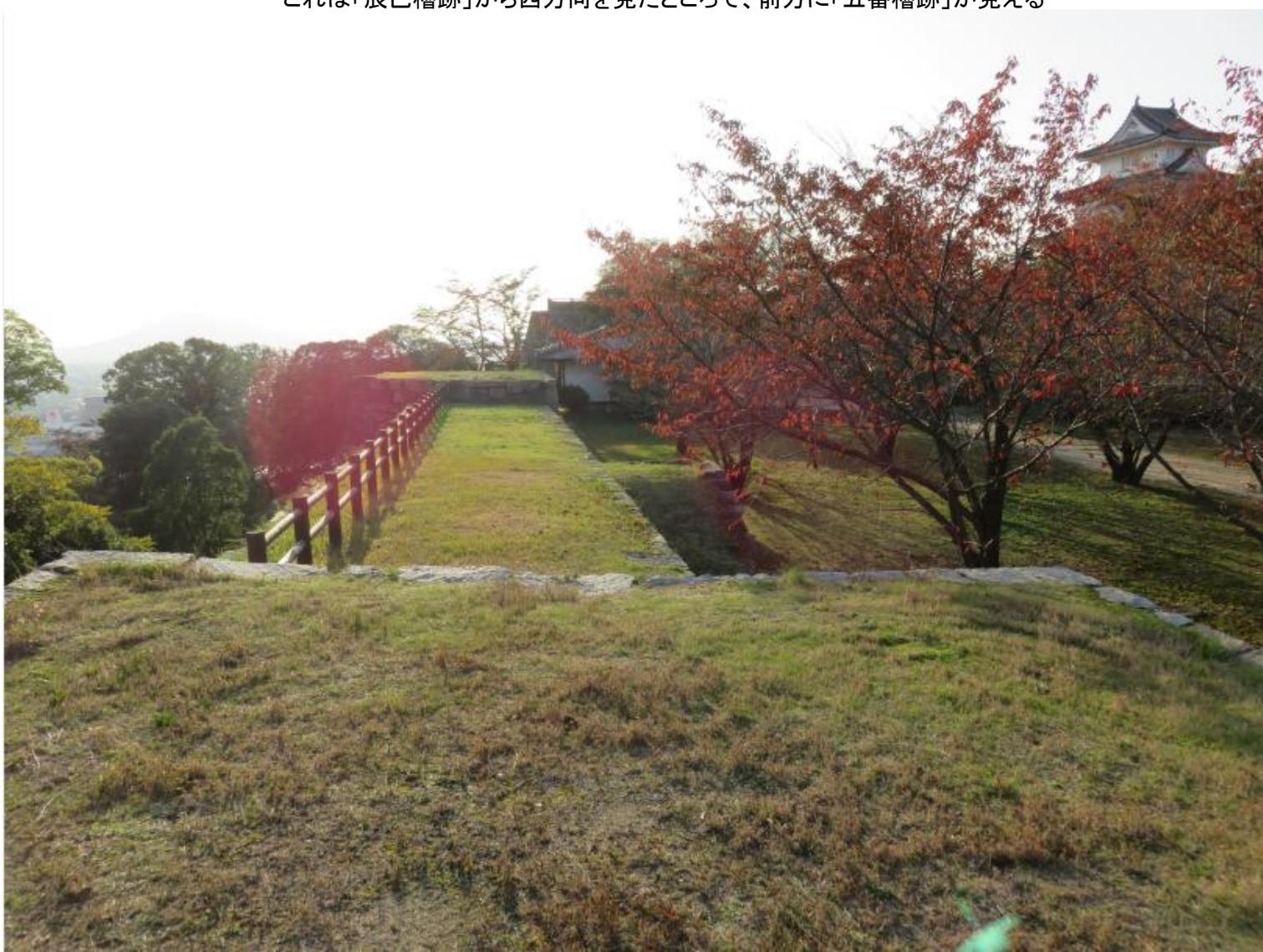
その枡形虎口を覗き込んだところ/右手に下り折れながら「二の丸」へと至る



振り返って南方向に「辰巳櫓跡」を見たところ



これは「辰巳櫓跡」から西方向を見たところで、前方に「五番櫓跡」が見える



さて、これは「二の丸」の北側にある「二の丸井戸」



二の丸井戸

この井戸は直径が一間（一、八メートル）、深さは絵図によると三十六間（約六五メートル）と記され、日本一深い井戸といわれている。丸亀城で最も高いところにあり、現在も水を湛えている。また、石垣を築いた羽坂重三郎が敵に通じるのを恐れたお殿様により、この井戸の底に入っている間に石を落されて殺されたという伝説が残っている。

井戸を覗き込んでみよう



こんな塩梅



これは北側の渡櫓の石垣の上で東方向を見たところ/前方の隅は「番頭櫓跡(鬼門櫓跡)」



その「番頭櫓跡(鬼門櫓跡)」の手前に標柱が立っていた



「二の丸隅櫓跡」と記されていた



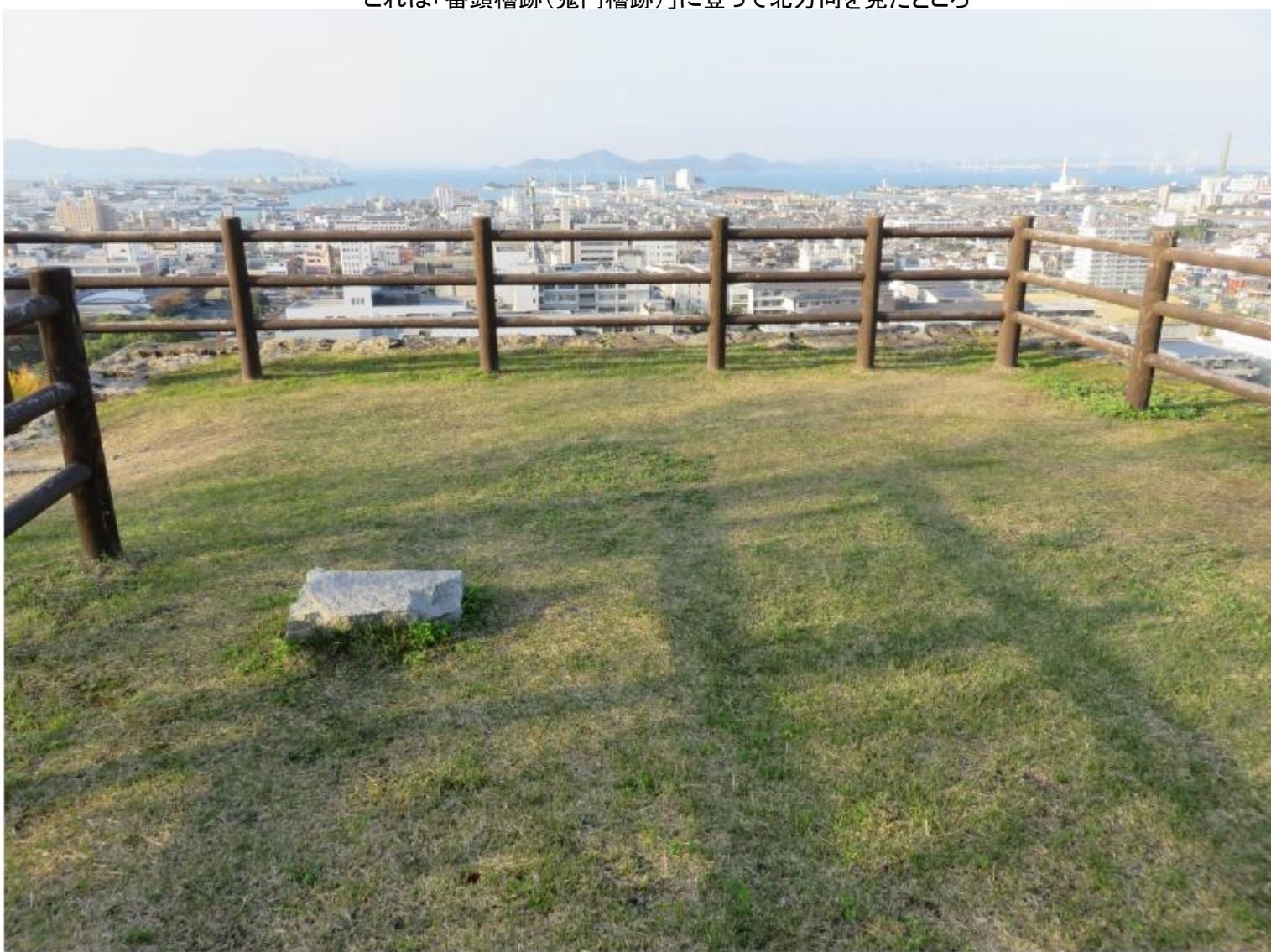
ここが「番頭櫓跡(鬼門櫓跡)」/東方向に見たところ



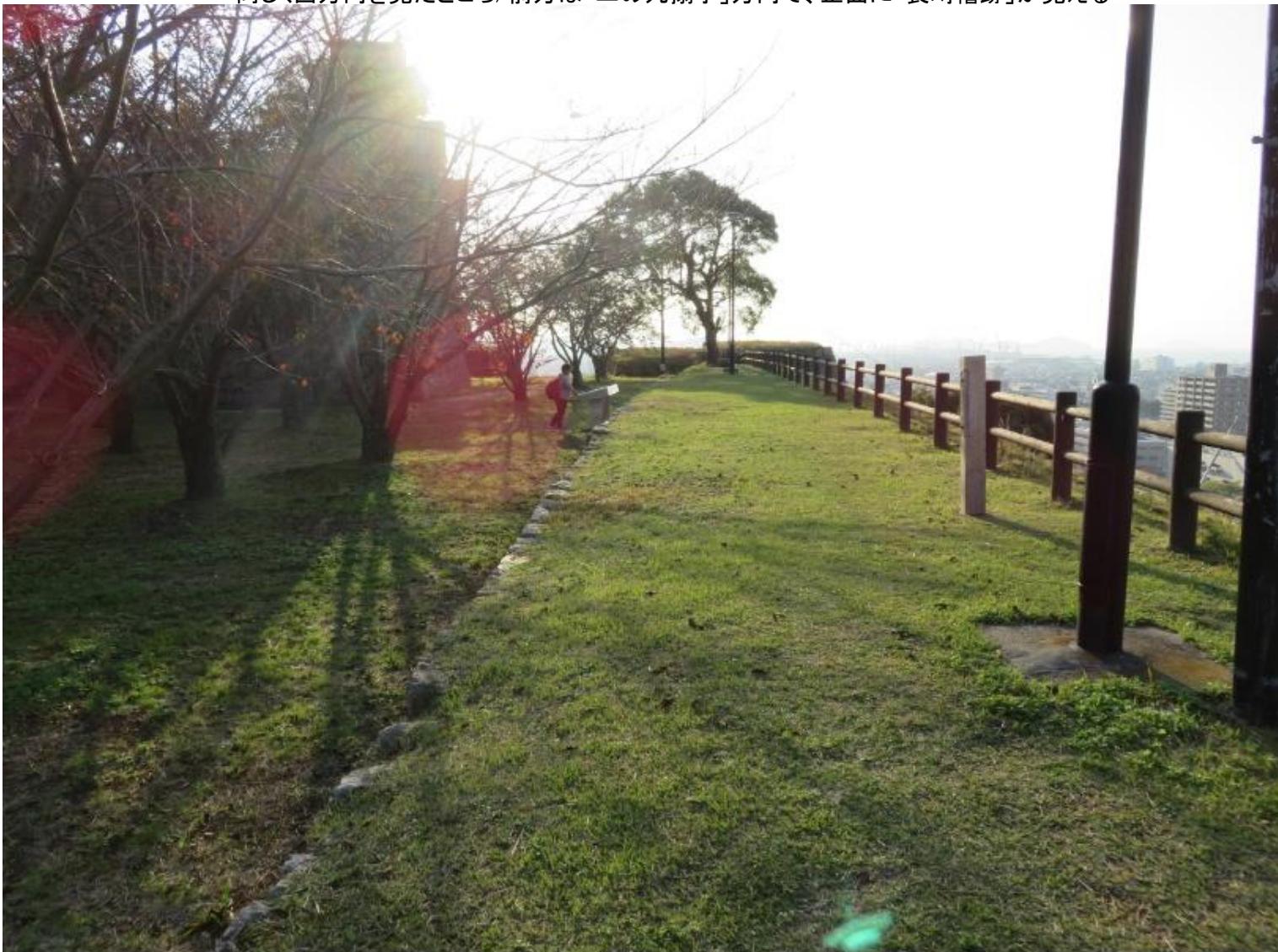
そこから右手を見たところ/渡櫓の石垣が東側に沿って舟形虎口方向へと延びている



これは「番頭櫓跡(鬼門櫓跡)」に登って北方向を見たところ



同じく西方向を見たところ/前方は「二の丸搦手」方向で、正面に「長崎櫓跡」が見える



同じく南方向を見たところで、前方が枡形虎口



これはそこで左手を見下ろしたところ/直下の道は北側の「三の丸」を東方向に進んで来た道/その左手の道は「見返り坂」から「三の丸」への坂虎口



これは「番頭櫓跡(鬼門櫓跡)」を下りて柳形虎口方向を見たところ



その右手を見たところ/前方は「本丸」の石垣



その「本丸」の石垣を「二の丸」の東側から西方向に見たところ



これはそこで振り返って「二の丸」東側の渡櫓の石垣を見たところ



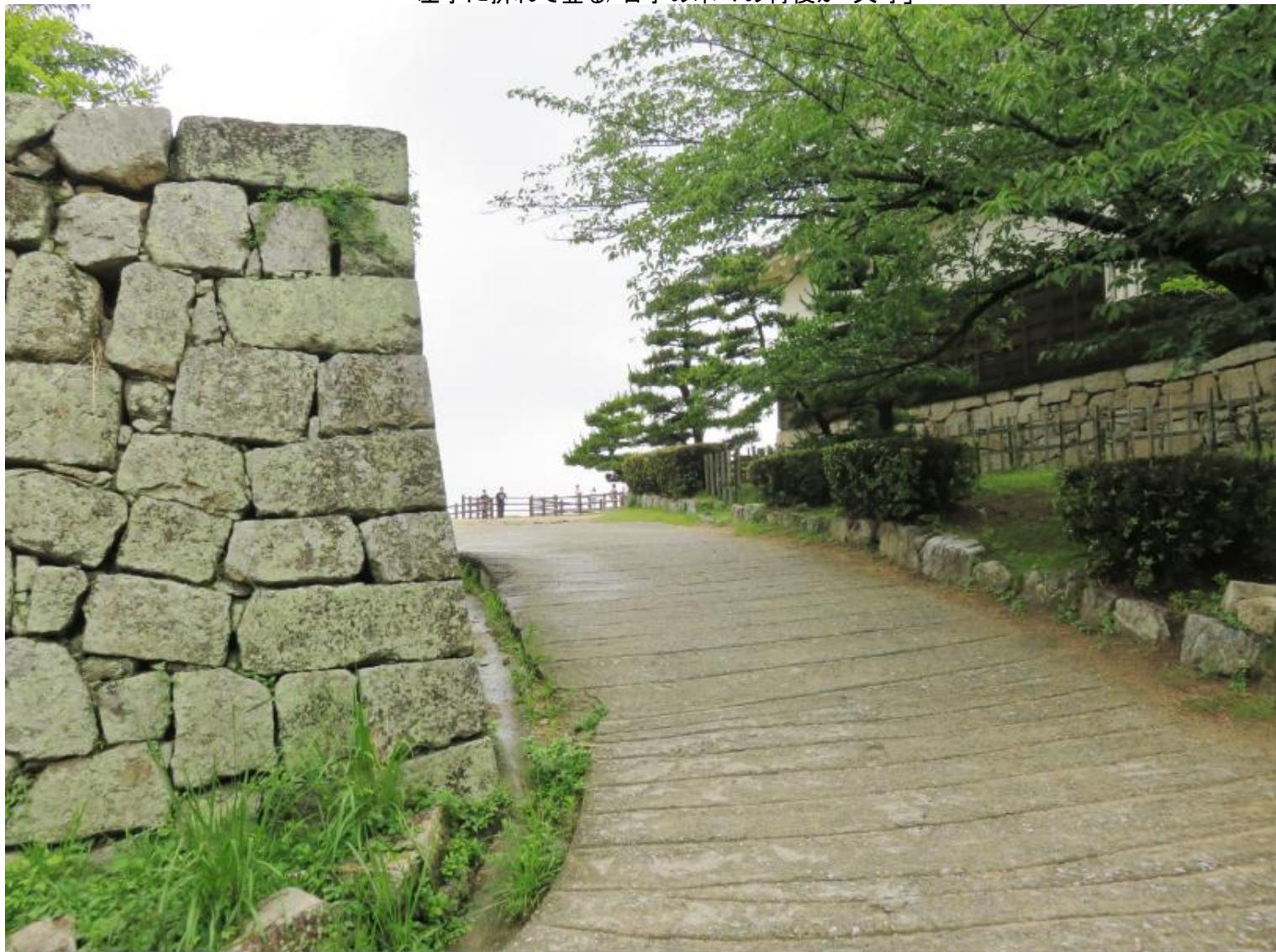
さて、「本丸」へと進もう/正面が「本丸」への坂虎口で、その上に「天守」が見える/右手奥の張り出しが「塩櫓跡」



「本丸」への坂虎口



左手に折れて登る/右手の木々の背後が「天守」



振り返って坂虎口を見たところ



そこで右手の「本丸」石垣を見たところ/前方隅の上は「宗門櫓跡」



いよいよ正面が「本丸」



坂虎口を登り切って南方向を見たところ/左手前方隅が先程の「宗門櫓跡」



同じく西方向を見たところ/正面前方の隅が「姫櫓跡」



その右手を見たところ/「天守」への入口が見える



そこから「天守」を見たところ/「天守」手前の右手が坂虎口/右手前に説明坂が立っている





まるかめじょうてんし。 つけたり

丸亀城天守 (附 指定)板札 国指定重要文化財 昭和18年6月9日指定

江戸時代前期、山崎氏により建築されたと考えられる天守で、全国に12しか残っていない貴重な現存木造天守です。高さ15m、3層3階、入母屋造の本瓦葺で、壁面及び軒裏は漆喰で総塗籠になっています。1層目は東西6間、南北5間の広さで、高さ約2mまで腰板張りとし、北面に石落としを設け、二の丸搦め手に備えています。2層目は東西4間半、南北3間半、南北に唐破風をつけ、3層目は東西3間、南北2間、東西に千鳥破風、北面には素木の格子窓を設けています。

天守内部は、各階に柱を建て、特に隅柱は左右に添え柱を建て、柱頭に蟇梁をかける堅固な構造としています。木材は梅を主に使用し、檜と松も使用しています。壁面は長押の高さまで漆喰を厚く塗り防御を固めるとともに、足元には非常の際に打ち抜いて使用する大砲狭間を設けています。通し柱を使わず各階に柱を建て、上階を急激に狭め通減率を大きくしていることと、本来なら間口の広い東西方向に棟を設けるべきところを南北方向に三角形の入母屋屋根を見せることにより、北側の城下から見上げたときに天守が大きく見える工夫がなされています。

また、昭和23年から25年にかけて行われた解体修理の際に、最上階の南東隅の壁面内部から長さ75.8cm、幅13.9cm、厚さ6mmの檜材の板札(祈祷札)が発見され、この墨書により天守が万治3年(1660)に完成したと考えられています。



蟇梁



厚く塗った太鼓壁と大砲狭間



板札

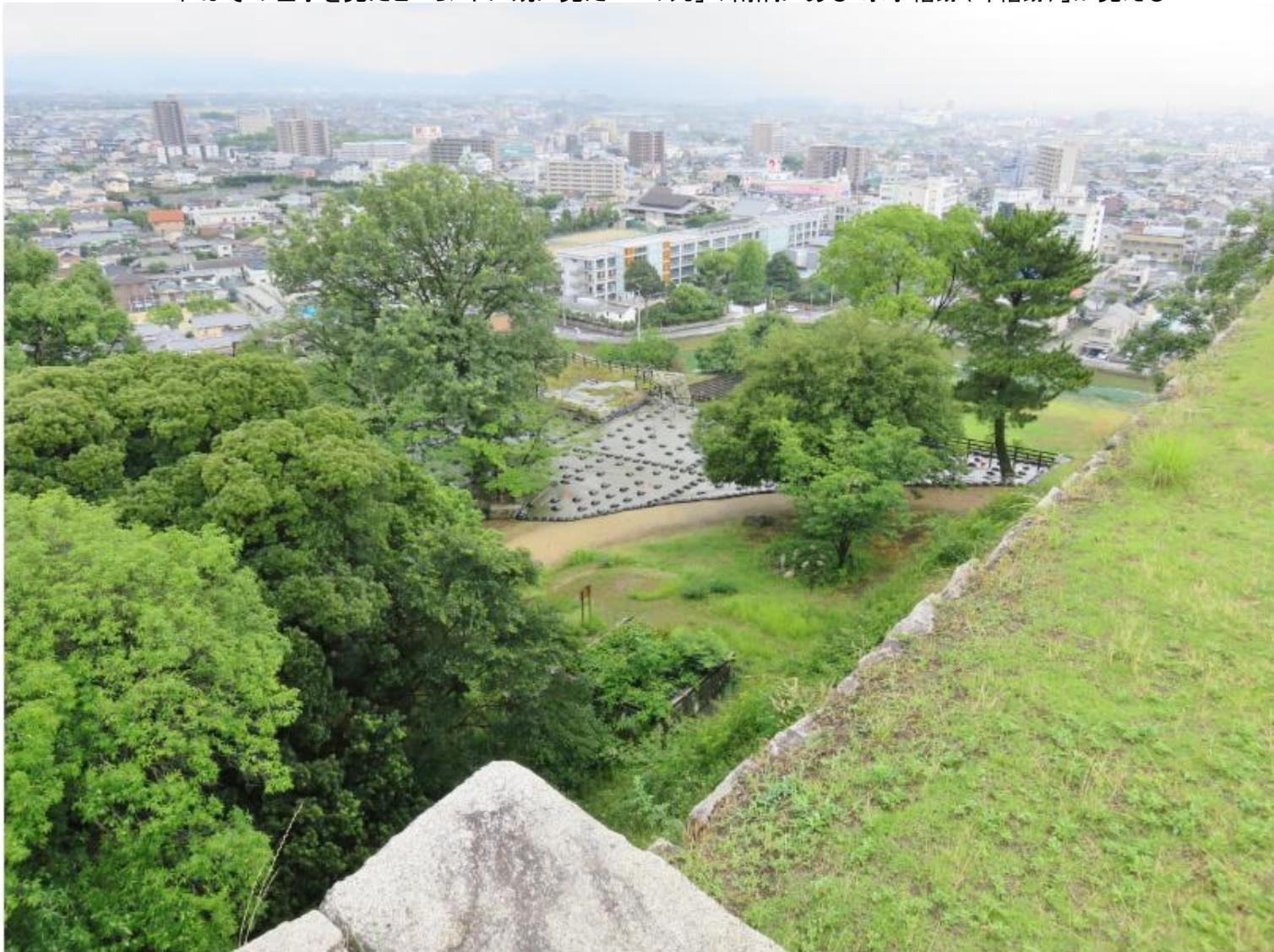


板札(赤外線写真)

これは「宗門櫓跡」から西方向を見たところで、前方隅は「多門櫓跡」



これはその左手を見たところ/下に既に見た「三の丸」の南隅にある「水手櫓跡(坤櫓跡)」が見える



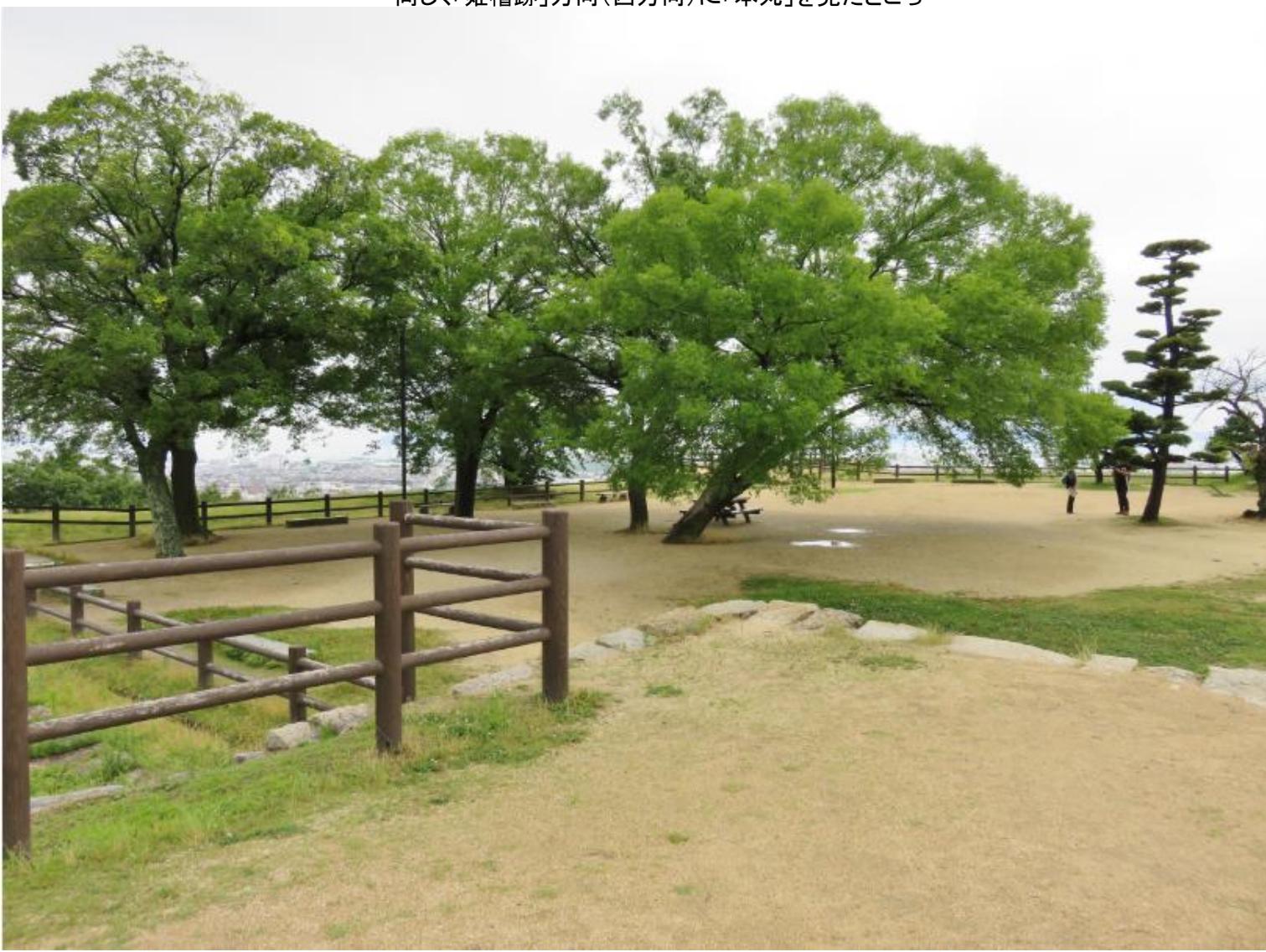
更に左手の東方向を見ると、すぐ下に「二の丸」の南隅が見える



これは「宗門櫓跡」から「天守」方向(北方向)を見たところ



同じく「姫櫓跡」方向(西方向)に「本丸」を見たところ



さて、これは「多門櫓跡」から「姫櫓跡」方向(北方向)を見たところ



同じく「天守」方向(北方向)に「本丸」を見たところ



同じく南方向を見ると、下にやはり既に見た「三の丸」の南隅にある「水手櫓跡(坤櫓跡)」が見える



「本丸」中央から北方向に「天守」を見たところ



これは「姫櫓櫓跡」から西方向を見たところで、真下に「三の丸」の「七間櫓跡(戌亥櫓跡)」が見える/その先の下は「山下曲輪」で右手に「藩主玄関先御門」、「番所・長屋」、「御駕籠部屋」の屋根が見え、左手には城の下の御殿跡に建つ資料館の屋根が見える



同じく東方向に「天守」を見たところ/左奥に「二の丸搦手」を「二の丸」へ登った所にある「長崎櫓跡」が見える



これが万治3年(1660年)に完成した全国に12しか残っていない貴重な日本一小さな3層3階の現存木造天守/重要文化財

